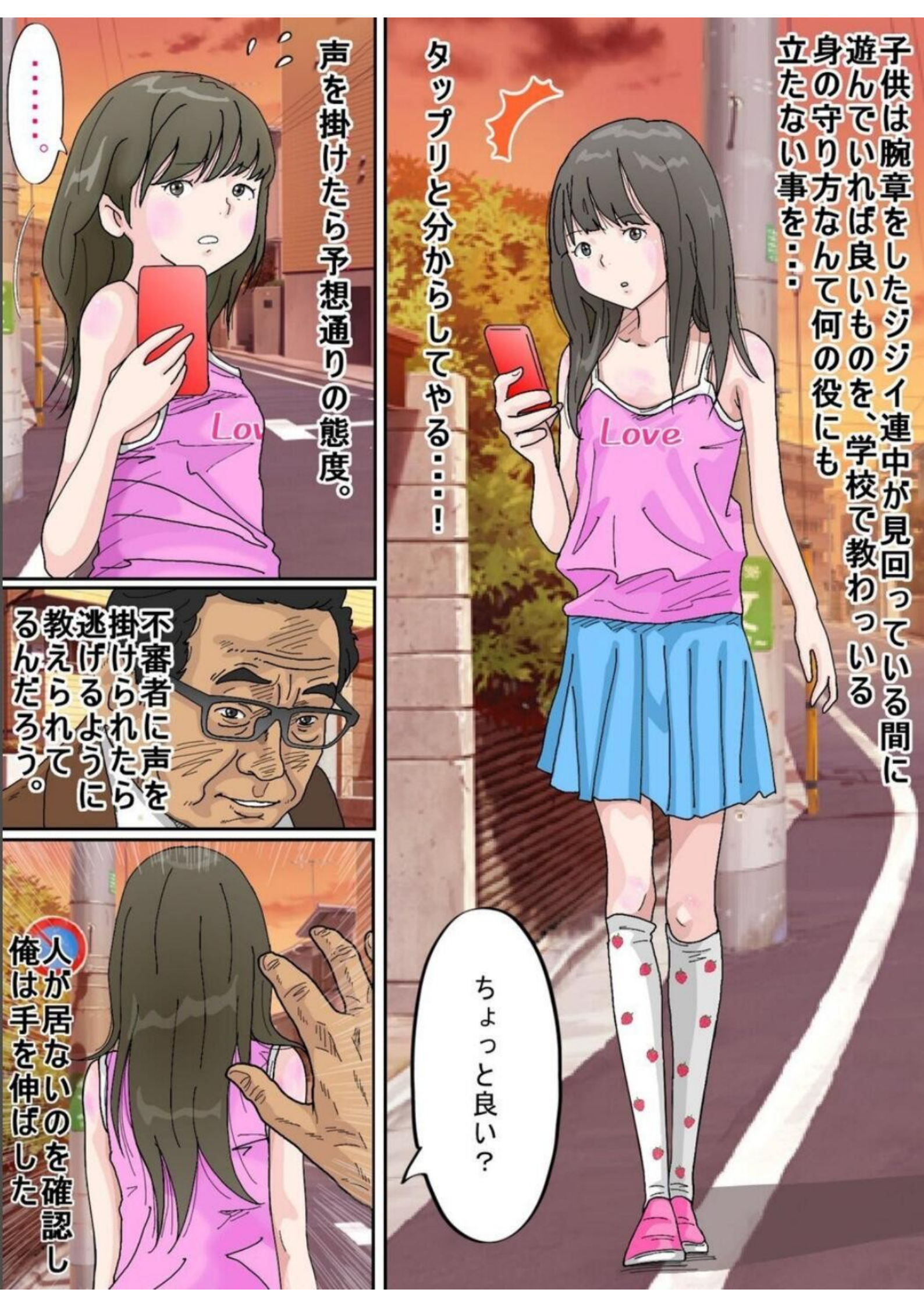
下校時間・公衆便所
Love
こたつぶとん

・・・この間、小学校高学年を犯った。
夕方一人で俯いたまま
携帯に夢中になってるのを見つけたんだが
ピンクの紐キャミと水色のミニスカ・・・、
そしてイチゴ柄のニーハイ。
・・・十二歳くらいか。
俺の大好きな身体つき。
この年齢独特の
微妙な膨らみ・・・。
Love
ミニスカから伸びる
スラリとした脚・・・。
余計な脂肪など
付いていない。
・・・堪らん！


子供は腕章をしたジジイ連中が見回っている間に
遊んでいれば良いものを、学校で教わっている
身の守り方なんて何の役にも
立たない事を・・・
タップリと分からしてやる・・・！
ちょっと良い？
声を掛けたら予想通りの態度。
・・・・・・。
不審者に声を掛けられたら逃げるように教えられてるんだろう。
人が居ないのを確認し俺は手を伸ばした

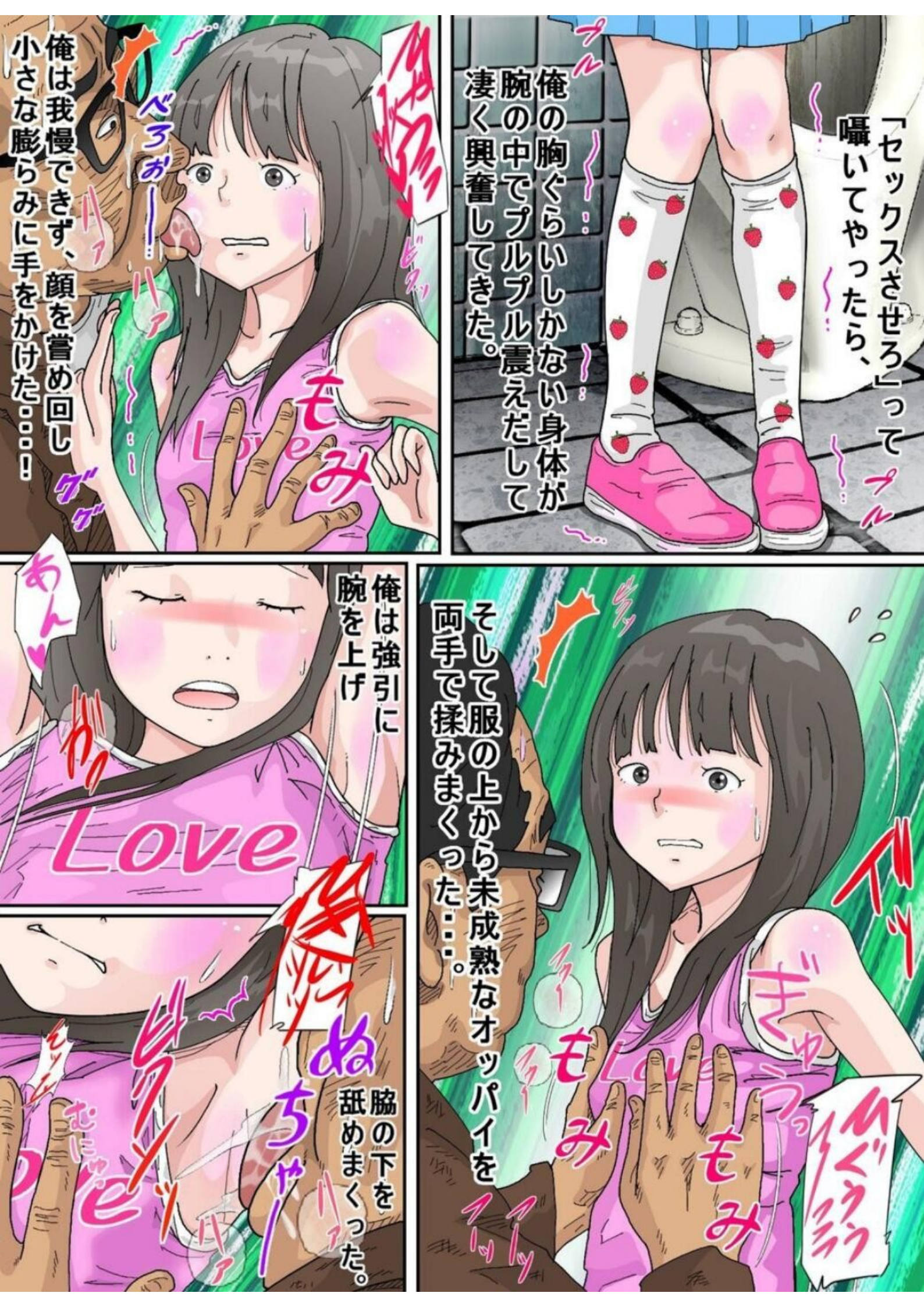
この辺りは田舎でこの時間は極端に人通りが少ないのを俺は知っていた。
…ひゃは！
ダダッ
少女の腕を掴む。
ガシッ
えっ!?
こっち来るんだ！
グイッ
ぎぃぃっ
離してください！
…やぁ！

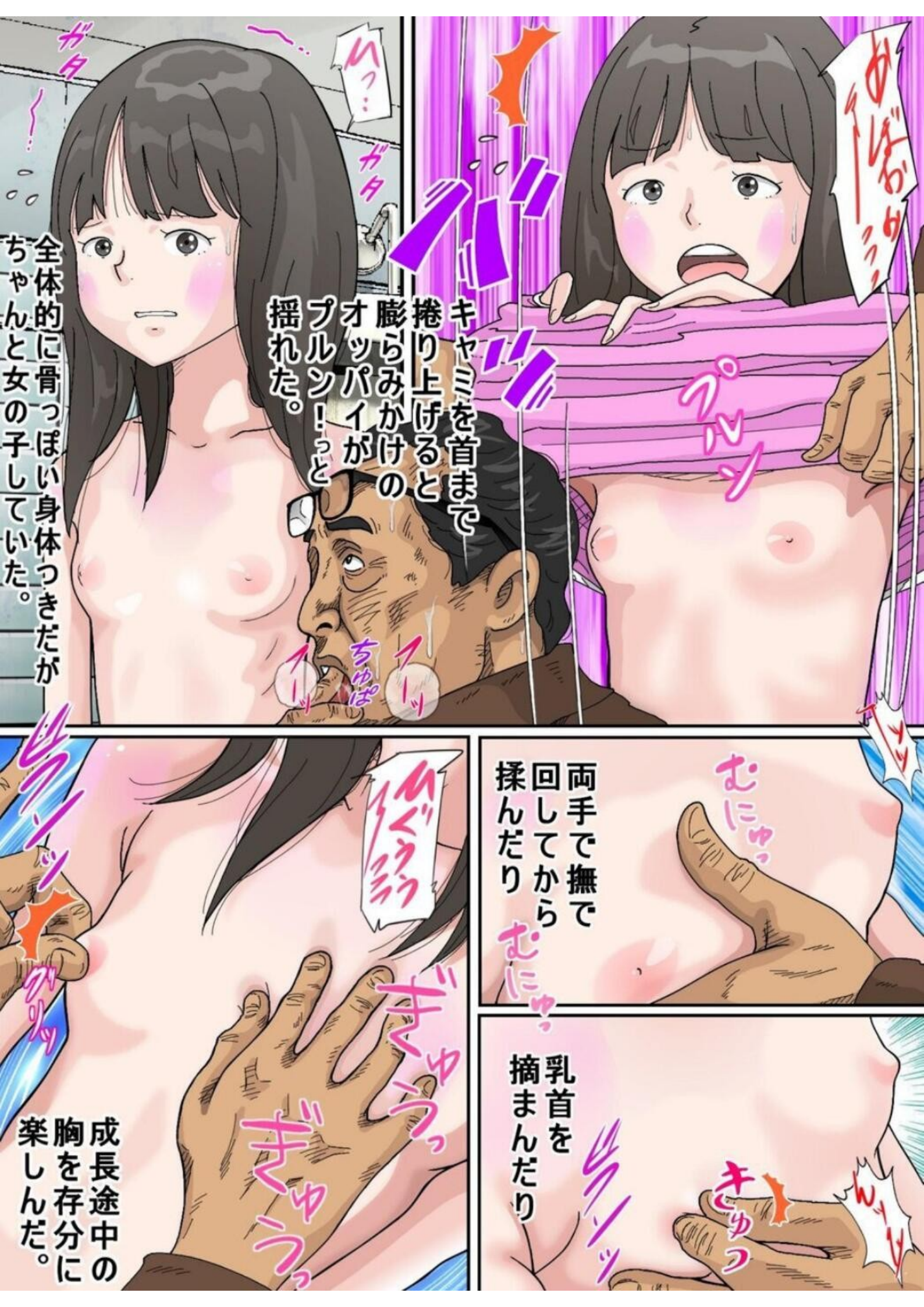
あっ
ザッ
やあっ!!
ぐいー
少女は抵抗したが大人の力に叶うはずもなく俺は人気のない場所に引っ張って行った。
ぐら
ドテッ
…いた～い…！

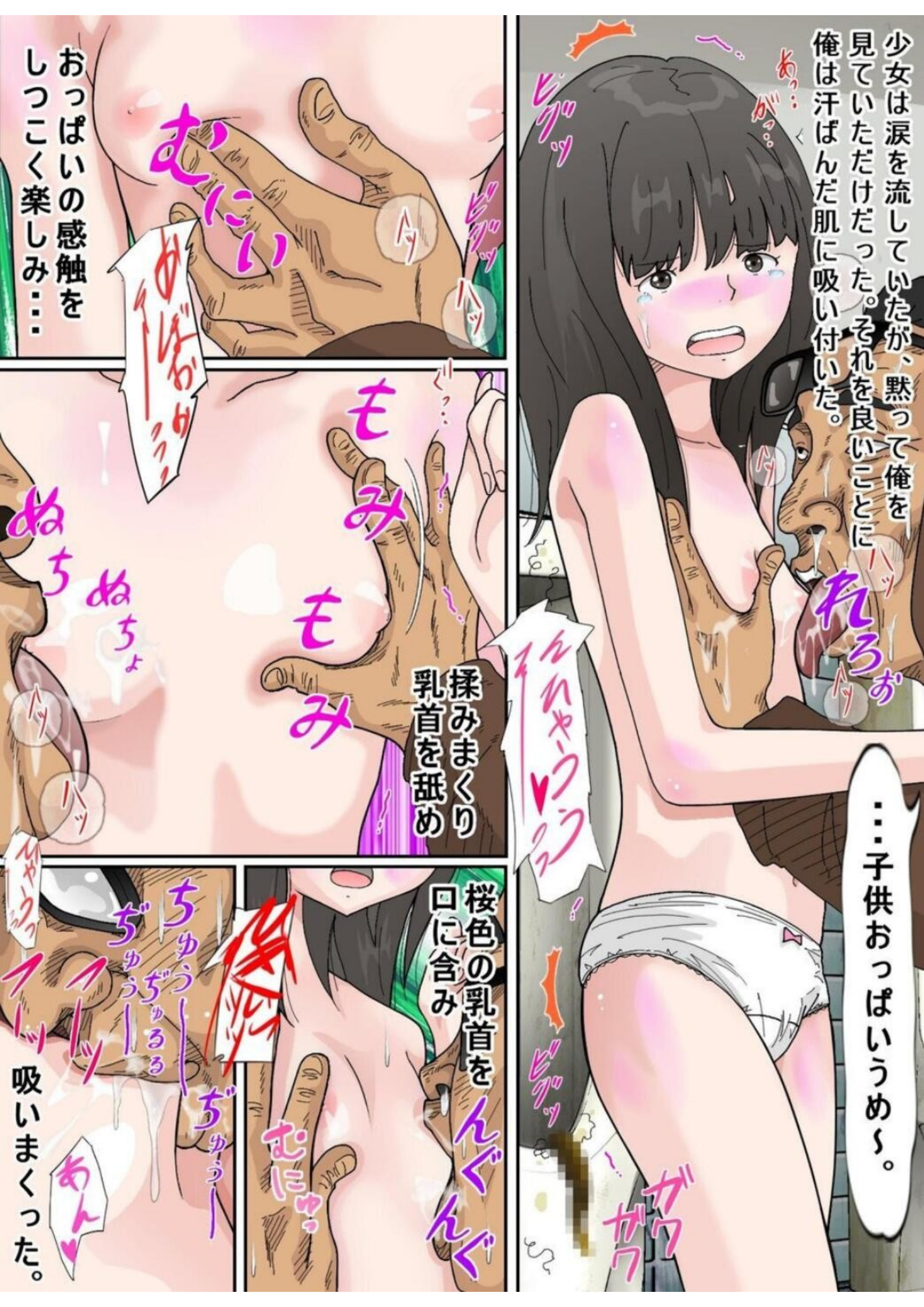
勢いよく腕を引っ張られた為、
少女はバランスを失い
小石に足を躓き
尻もちを付いた……。
くぃた…
膝を立てた時に
少女の純白の
パンツが見えた。
ずず…
love
ふぅ…
ふぅ…
ふぅ…
ふぅ…
ふぅ…
ギンッ
はぁはぁ
ゴクッ

パンツをじっくり官能した後
俺は大分前から使用されていない
公衆便所に少女を連れ込んだ…。
…臭い！
汚い…！
いやぁー！
帰して…！
はあ…はあ…
すう…
ん？
Love
ビリ…
真夏の蒸し暑い公衆便所は
鼻が曲がるほど悪臭を放っていた。
使われていない便器は
黄色く変色し、ウンコも清掃されず
そのまま放置されている…。

俺はマネキンのように棒立ちしている少女に近づき顔をなでたり
肩からほっそりした両腕をなで…
スベスベだぁ。
抱きついて尻をじっくりとしつこく撫でまわした……。
俺のイチモツはもうカチカチになっていた。
セックス、させろよ…。
もみもみ
クリクリ


「セックスさせろ」って囁いてやったら、
俺の胸ぐらいしかない身体が腕の中でプルプル震えだして凄く興奮してきた。
プル
俺は我慢できず、顔を嘗め回し小さな膨らみに手をかけた…!!
べろぉー
ハァハァ
もみ
Love
俺は強引に腕を上げ
あん♥
Love
脇の下を舐めまくった。
ぬちゃ
ピクッ
ビクッ
もみ
Love
そして服の上から未成熟なオッパイを両手で揉みまくった…。
ぎゅうっ
もみ
Love


キャミを首まで捲り上げると膨らみかけのオッパイがプルン！っと揺れた。
全体的に骨っぽい身体つきだがちゃんと女の子していた。
両手で撫で回してから揉んだり
乳首を摘まんだり
成長途中の胸を存分に楽しんだ。


少女は涙を流していたが、黙って俺を見ていただけだった。それを良いことに俺は汗ばんだ肌に吸い付いた。
…子供おっぱいうめ～。
れろぉ
ガワガワ
ビッビッ
ハッ
ハッ
ハ

いよいよメインイベント。
白の小さいリボンが付いた
子供らしい綿のパンツ。
蒸れた体温の感触がする
パンツ越しに指で愛撫する…。
…あぁ…。
そして、高学年の
マンコと御対面。
俺は少女の太腿に
顔を摺り寄せ大きく
息を吸った。
子供の甘い香り…。
最初は割れ目を
広げたり小さな
クリを舌先で
刺激して遊んだ。

そしてプニプニの
ふくらみを舐め上げてから、
舌先を入れてヌメついた
粘膜をタップリと味わった。
マンクッ～～マンクッ
ハッハッ
ちゅぷ
くちゅくちゅ
ピクッ
ビクッ
ビクンッ
ぬちゅぬちゅ
ぬぶぶぶぶぶ
はぁはぁ
ぬちゅちゅぷ
ぐぐぐぐぐ
ぐぐぐぐぐ
ぐぐぐぐぐ

再び可愛い顔に舌を這わせる。
ねちゃあぁ
少女の頭を掴み
自分の方に引き寄せ
ぐっ
無理やりキスをした。
んぼっ
ぬちゅ
ハッ
ハッ
スリッ
ムワッ
立ったまま
少女の鼻先に
俺の包茎チンポを
近づけた。
今度は俺を気持ちよく
してくれよ、やらないと
何時までも帰れないぞ。
勿論洗ってなどいない。
くさ!臭い
チンポが温かい口の中で
舌と触れる感触と、
自分が何されているか
分かってないような
呆けた表情。
ぐぽっ
ぐぽっ
その顔でチンポを咥えてる
少女を見てたら興奮が倍増した。

ヤバ！、出る！
づっ!?
ぶるっ
・・・なんて声を漏らしながら
腰を突き出したら
音がしそうなくらいの
勢いで射精してしまった。
どくっ
ドクッ
ドクッ
ドクッ

余りにも少女が大人しいのに調子にのった俺はトイレの床に寝かせて脚を開かせると
ムラムラ
ムラムラ
んっ♥
すっ
チンポを割れ目に擦り付けた。
高学年にそういう事をしている事実に興奮する……。
ビクッ
キュッ
ムクムク
えっ!?
ズチッ
カチカチになったチンポを握って割れ目をこじ開けるようにして強引に押し込んだ。
ズブッ
ズブッ
ズブッ

ズチュ
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ

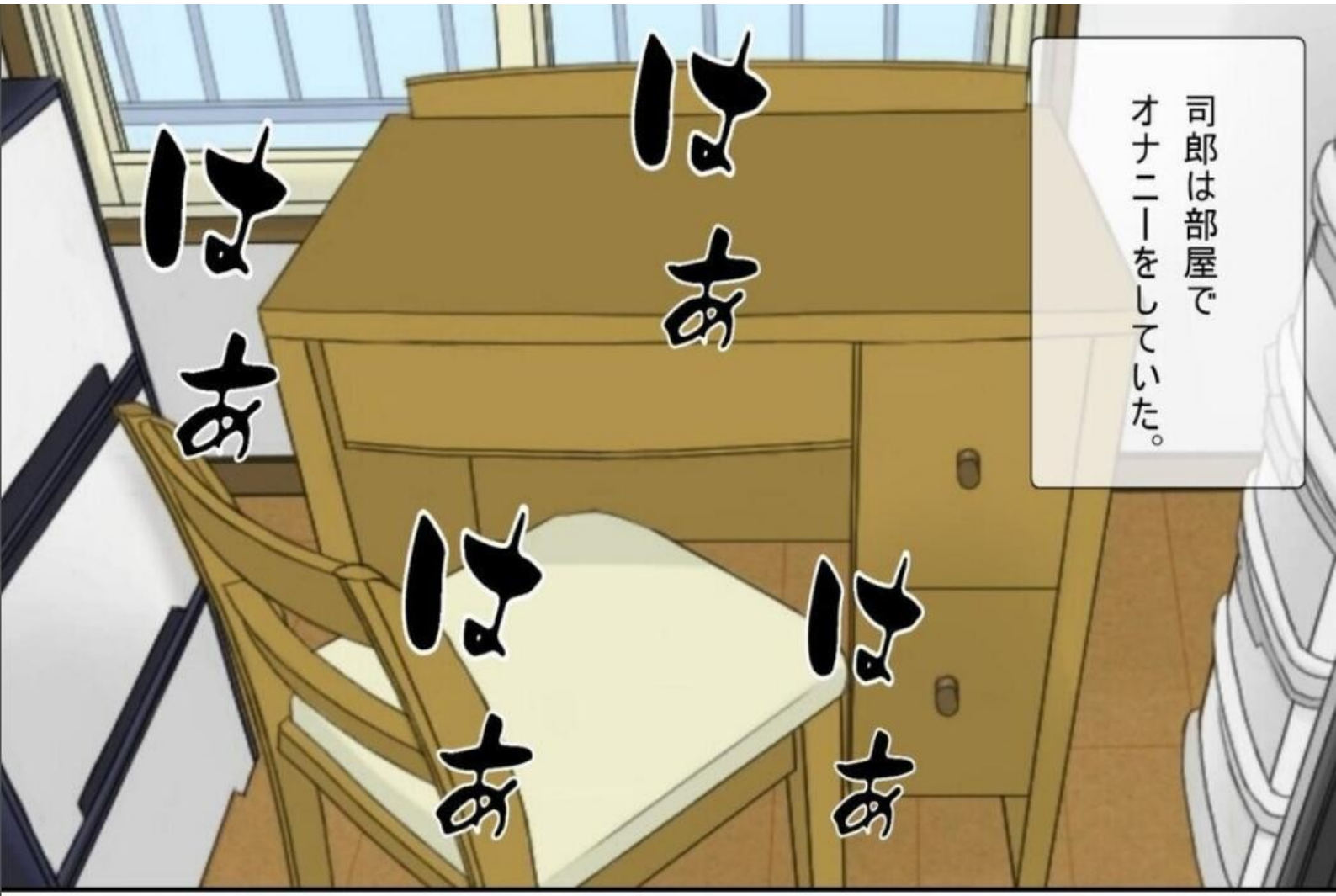
俺の臭い包茎チンポが幼い少女のマンコと擦れて泡だらけになって出入りしているのが見えた。
ぎぃぃっ
あっ…
ズチュッ
ジュボッ
ズチュッ
ズブッ
ズチュッ
ズブッ
ぐっ
…悪臭で満ちている公衆便所で(しかも男子便所)床にはカチカチになった糞が転がっている。
不潔極まりない床に手を付いて見知らぬ中年男に高学年の少女がバックで突かれまくっているのだ。
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズボッ
ズチュッ
ズチュッ
ズブッ
ズボッ
ズチュッ
ズブッ
ズボッ
ズブッ
ズボッ
ズブッ
ズボ

俺は少女の両腕を掴み激しく腰をピストンさせた。
最高の・・・マンコだ！
でる！

流石に十時を
過ぎていたので
流石に俺は焦った。
…うぅ…。
ピクッ
ヒック
ピクッ
ピクッ

…俺は周りに人が居ないのを
確認して公衆便所を後にした。
ヒック
ヒック
おわり

妹・真奈美
こたつぶとん


はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
司郎は部屋で
オナニーをしていた。

はぁ
はぁ
はぁ
目を瞑ってある光景を
思い出しながら
一物をしごく。

真奈美いっ…
真奈美いっ…
心の中で呼びかけて
いるのは妹の名前だった。

数日前、偶然妹の
裸を見てしまったのだ。
洗面所に入った
時に……。

妹に対する
見方が変わった。

妹など所詮子供としか
思っていなかった。
お兄ちゃん！

来年[redacted]に上がる妹。

だが、あれ以来・・・

一緒に風呂に入らなくなって何年経つのか忘れたが。
あはははは。

グラビアで水着姿のアイドルを何度も見ていたが……、

その頃とは身体付きが全然違っていた……。

妹の身体はそんなものとは比較にならない美しさだった。

そしてそれは今まで見た
何よりも白く美しかった。
胸がプクっと
膨れ……。
全体的に
薄く肉が付き。
丸みをおびていた。
!!
その裸体の美しさは
激しい衝撃だった。

偶然とは言え、
風呂上がりの全く
何も身に付けてない
状態を見てしまった
のである。

（真奈美ぃ…！
何て綺麗なんだ…！）

びーん

思い出すだけで股間の
一物がカチンコチンに
固くなり射精したくて
たまらなくなった。

一度見てしまった
生の裸体。
まだ幼いとはいえ、
女の身体には
違いない。

歳の少年にとっては
それだけで十分だった。
（胸を揉んでみたい…）
膨れた妹の胸を掴んだら
どんな感触があるのか

しかも、手に触れんばかりの
身近な距離で見たのである。
それはたまらない興奮を
司郎にもたらした。

はぁ
ねばー
しーこ
しーこ
はぁ
はぁ

頭の中で妹が甘えた声を上げ悶える様を想像しながら、司郎は一物をしごき続けた。

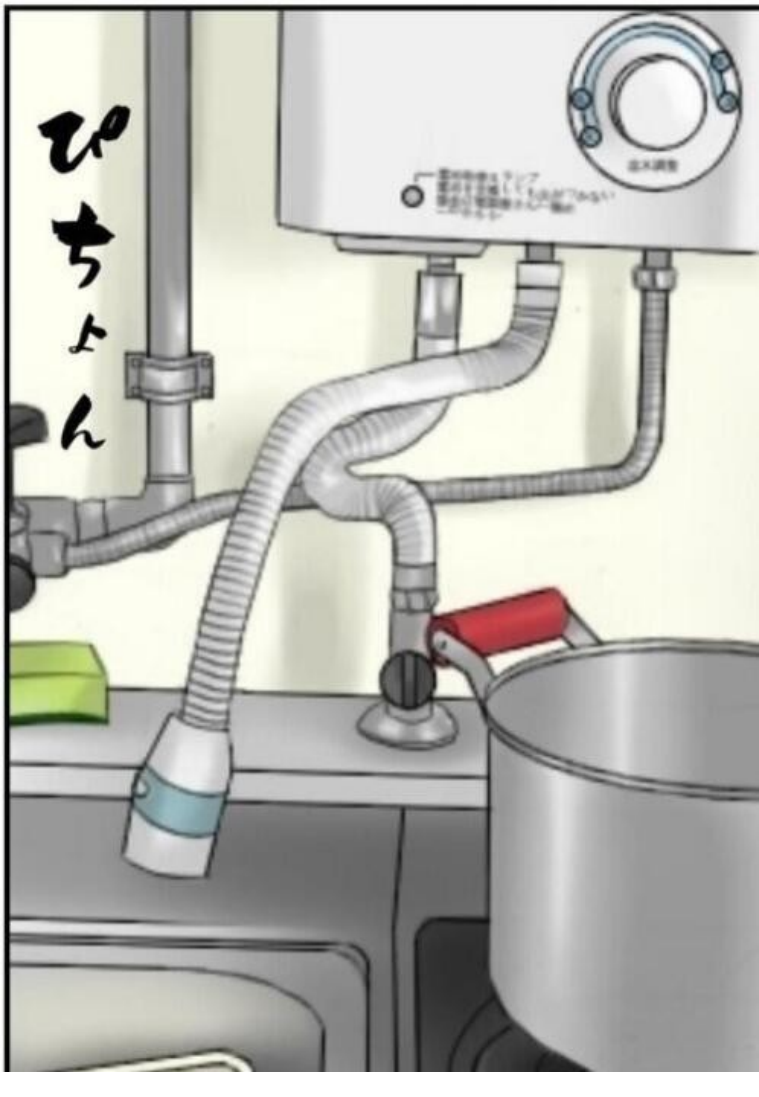
想像をすると息が荒くなり、射精感が高まる。

手の動きが早まった。

司郎は自分の顔にかかる激しい勢いでドクドクと精液を放出した。

どうお
オナニーを覚えて以来、アイドルのグラビア写真で何度も射精してきたが、妹の裸をオカズにして行う行為には、それとは比較にならない快感があった……。
（また…、しちまった…）
終ってしまうと、妹を対象にしてオナニーしている事に罪悪感を感じる。
はぁ
はぁ
始める時は興奮して気にならないが一旦射精し冷静になると、実の妹をオカズにしている事が悲しくてたまらない……。
だが、そう思っても妹の白く柔らかそうな身体を想像してしまうとすぐに肉棒が硬くなり、しごかずにはいられなくなるのだ。
（何とかしなきゃな…）
司郎は止められない自分を情けなく思いながら、空しく後始末をするのだった。

次の日……。



学校から帰ってくると、
風呂場から音が聞こえた。

しゃー

母は帰りが遅いと言っていたので、それは妹だろう。
はぁはぁ
どきどき
シャワーを浴びているのか…。
しゃーー
妹が裸でいる事を想像してしまう。
しゃーー
肉棒が一気に硬くなった。
(だ、誰も居ないんだよな…)
これはチャンスだ。
司郎の心臓は激しく脈打ち、身体が微妙に震え始めた。
びーんっ
ゆっくりと洗面所の前まで移動すると、バレない程度にドアを開け覗き込む。
(これなら見える…バッチリ見えるぞ…)
すっ
シャワーを終えた妹が出てくれば、夢にまで見た裸体がまた見れる。
司郎はドキドキしながらその時を待った。

水の流れが止まり、風呂場のドアが開く。
（…！）

待ち焦がれた妹の裸がそこにあった。
眩しいほどに白い肌と、つつましいが緩やかに山を描く胸の膨らみが目に映る。

妹は何も気づかず身体を拭いている。

隠れたり現れたりする裸体がまるで誘うように見え司郎は抑えられない自分を感じ始めた。

妄想の中でしてきた行為がグルグルと頭の中を駆け巡る。

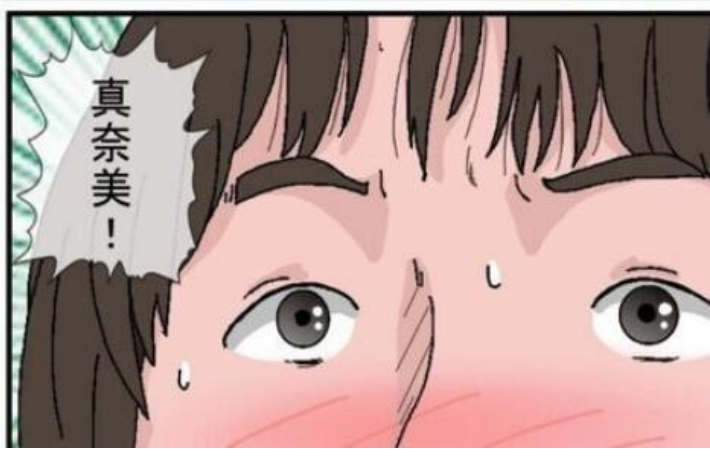
身体を拭き終えた妹が下着を取った。
（お、終わり？）

ドアを勢いよく開けた。

このままではもう裸が見れなくなってしまう。こんなチャンスは二度とない。頭に血が上りクラクラしてくる、

欲望に侵された脳は冷静な判断を奪ってしまった。妹の裸を見ることだけで頭が一杯になっていく。

妹は叫び声を上げ、とっさに、身体を隠す。



やぁ!!
ばっ
司郎はそのまま近寄りバスタオルを剥ぎ取ってしまった。
はぁ
はぁ
お兄ちゃんちょっとやだ…やめてよね…。
…お兄ちゃん?
妹は胸を両腕で隠しながら、
何時もと違う兄の様子に驚いた表情を浮かべている。
あっ!!
ぐっ
司郎は腕を掴むと、力を入れて広げようとし、妹も負けじと逆らう。だが[redacted]の兄の力にはかなう筈もなく、やがて胸があらわになった。

さきほど見た時も思ったが、更に間近で見る妹の胸は凄まじい美しさだった。
離してっ！
痛っ
ぐぐっ
（…すげぇっ！）
手を伸ばしてギュッと掴む。
びくっ
あんっ
ぎゅっ
妹がビクっと身体を震わせて、今まで聞いたことのない様な甘い声を上げた。
びくっ
もみ
もみ
あんっ…
またビクっと反応し、声を上げる。
…あっ！
何て柔らかいんだ…。
もみ
もみ
びくっ
びくっ
掌から伝わってくる感触は今までに経験した事のないたまらない快感だった。
小さいながらもムニュムニュといった感じで形を変える乳房。
あっ、あんっ…ちょっと止め…、はぁっ…。
びくんっ

妹の慎ましい膨らみを好きなように弄び、スベスベとした肌の感触に酔う。

チュバチュバと激しく吸い上げ、右の乳首を吸っては左に移動しすぐさまた右に、といった具合に両方の乳首を激しく吸いたてていく。

快感に力が抜けたのか、妹は抵抗を止め、顔も上気しトロンとした表情を浮かべている。

その事に気を良くした司郎は、自由になった両手でさらに揉み込んでいった。
（あぁ、何て気持ちが良いんだ）

鼻息を荒くしながら揉み続け、ついには唇を可憐な桜色の乳首に押し付けた。

司郎は膨らみかけた乳房を狂ったように吸い、その間も揉む事を止めなかった。

妹の身体からは力が抜け、ぐったりともたれかかってきた。
お兄ちゃん止めて…。
お願い…。
泣きそうな表情で妹が声をかけてくる。その事で、今自分が相手にしているのが実の妹である事を思い出し、罪悪感を感じたが同時にゾクリとした興奮を覚えた。
兄として守るべき妹を襲っていると言う罪悪感があったが、それを遥かに超える快感が司郎の心を支配していた。
ふぅ
ふぅ
妹の身体を存分に味わいたい、その思いで頭が一杯だったのである。（真奈美ごめん…俺、したいんだ、どうしても…）
べろぉ
ぴくん
心の中で謝りながら、スラリとした脚を太ももから脚の先まで舌を這わせていく。
ぴくん
ぴくん
あ、いやっ…そんな、あっ、あぁんっ…！
ぬろ
ぴちゃ
ぴちゃ
あん
足の指一本一本の間にまで舌を入れ隅々まで舐め上げていった。

!!
あぁ、見ちゃいやぁ！
くぐっ
司郎は、今まで後のお楽しみとして見なかった妹の女の部分についに顔を近づけた。よく見える様にグイと両足を広げる。
くぅ
ちゅ〜〜…
くちっ
司郎は乳房を吸い上げながら秘所に触れる。妹の弱々しい声が響く。（こ、これが…）初めて見る女の秘所。綺麗な縦筋…。（すげぇ）しかし、テラテラと光を放っている。妹の秘所から愛液が流れ出ているのだ。

はぁ
はぁ
ひく
…はぁ、…はぁ。
秘所から口を離すと、司郎の口と妹の秘所から唾液の糸が伸びた。

ちゅぷ
ちゅぷ
（俺が真奈美を感じさせているんだ）男として女を快感に導いてる事実に心が満足感で一杯になる。司郎は舌を伸ばし秘所に口をつけた。

喘ぎ声から快感を感じているのは分かっていたが、それが目に見える形として現れているのは何とも言えない感動があった。
くちゅ
ちゅ

司郎は何度も妹の乳房や秘部を吸ったり舐め、自分の一物を小さなお尻や太ももに擦り付けた。スベスベとした肌が擦れるだけで、今まで感じた事のない快感を送ってくる。
すり
すり
あっ
やっ
やぁっ、そんなのくっつけないでぇ。
もう完全に司郎は暴走していた。妹の身体を存分に味わいたい、その思いで頭が一杯だった。
ぬちゅ
ぬちゅ
あっ
んっ
はぁ
はぁ
はぁ
ぐにぃ
あん
くちゅ
ぷ
ぷ
あん
あん
ちゅ
ぷ
ぷ
ちゅ
あっ
やっ

そして、ブルンと
周囲の空気を
震わせながら司郎は
肉棒を妹の鼻先に
突きつけた。
びくっ
!!
妹はそれを見て、
目を見開いて驚いた。
すっかり充血して
弓なりになった
肉棒を間近で初めて
見たのだから
無理はない。
司郎は頭を
掴み強引に
妹の口に
突っ込んだ。
ぐっ
あっ!!
ずぼお
うっ
余りの気持ちよさに
司郎は狂った様に
激しく腰を動かした。
ぐっぐっ
がくがく
くちゅぷちゅ
んっ
んっ
でる
!!
どぷっ
どす黒い
欲望を、
実の妹の
口に
吐き出し
たが、
全く静ま
らなかっ
た。
びくん
びくん

突き入った肉棒に巻き付く幼い肉壁。その全てが欲望を刺激し更に亀頭が大きく膨れ上がっていく。

脂汗を全身にかいて悲鳴さえ細くなった妹。

司郎はグッっと先端を押し込むと狭い肉壁が広げられ、妹は悲鳴を上げる。（真奈美ぃ・・・！）

無理やりミチミチと司郎の肉棒が突き刺さって行く。

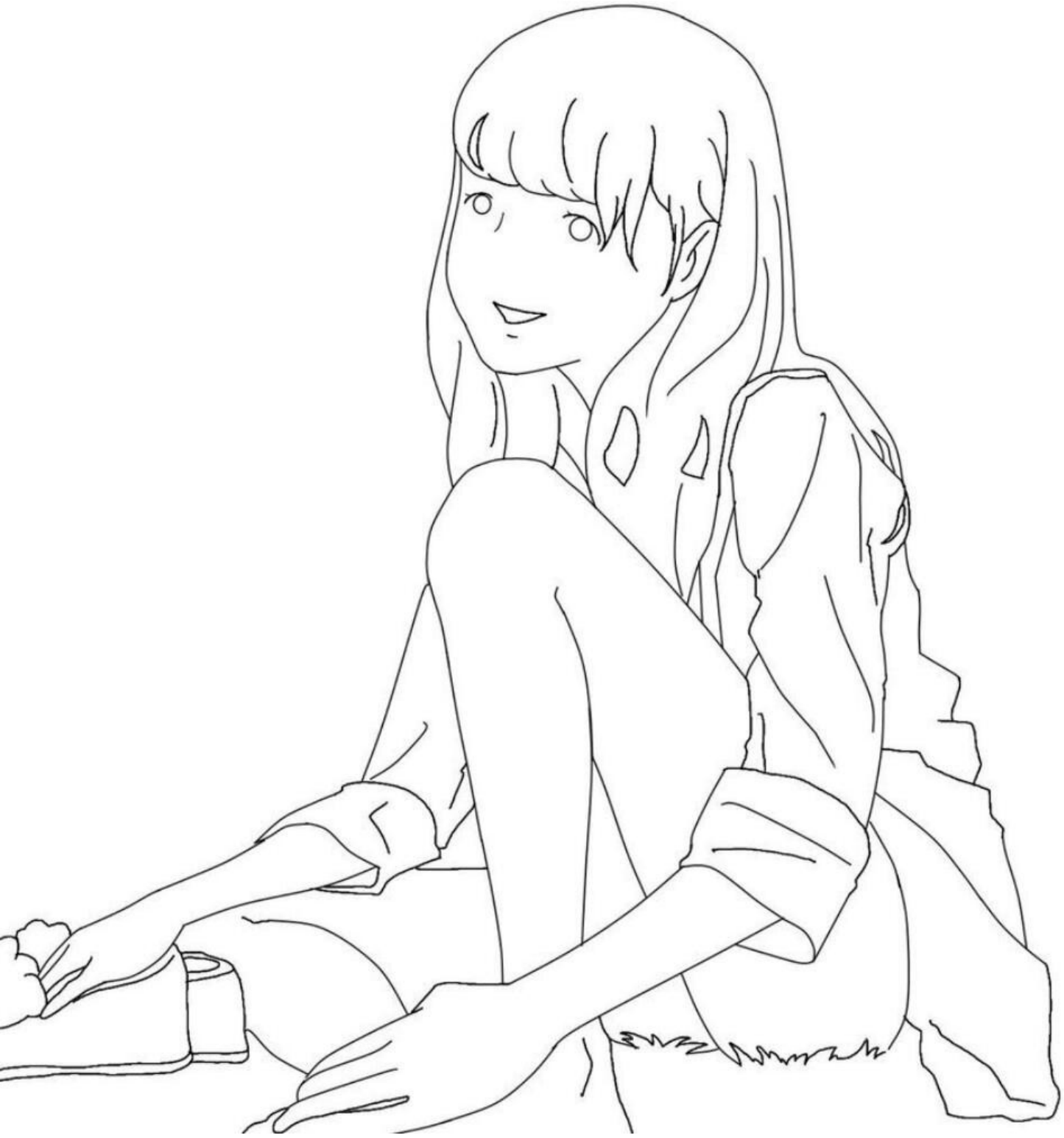
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
…もう、
…止めて
お兄ちゃん。
あん
あっ
あん
生まれて初めて
のセックス。
歳の秘部を
楽しむ司郎は
妹の泣き顔を
見つつじっくり
犯していく。
あん
あん
あん
あん
（真奈美いっ！）
（真奈美いっ！）
くちゅ
ちゅく
ぷちゅ
あん
ぷちゅ
くちゅ
あっ
もみ
もみ
あん

司郎は涎を垂らし、我を忘れて獣の息を吐きながら肉棒を抜き差しする。
あん
あん
あん
あっ
ぱんぱんぱんぱんぱんぱん
あっ
あん
くちゅ
ぷちゅ
くちゅくちゅ
あん
長時間かけ、幼い身体を楽しむ。やがて司郎は妹の中に射精した。
あん
あっ
あん
あっ
……あっ……！
（……出るっ真奈美い！）
どくっどくん
ずるん
ひく
ひく
…あっ…

…お兄ちゃんの
…馬鹿……。
おわり

山で出会った少女。

こたつぶとん



夏休みに入ったばかりの話。

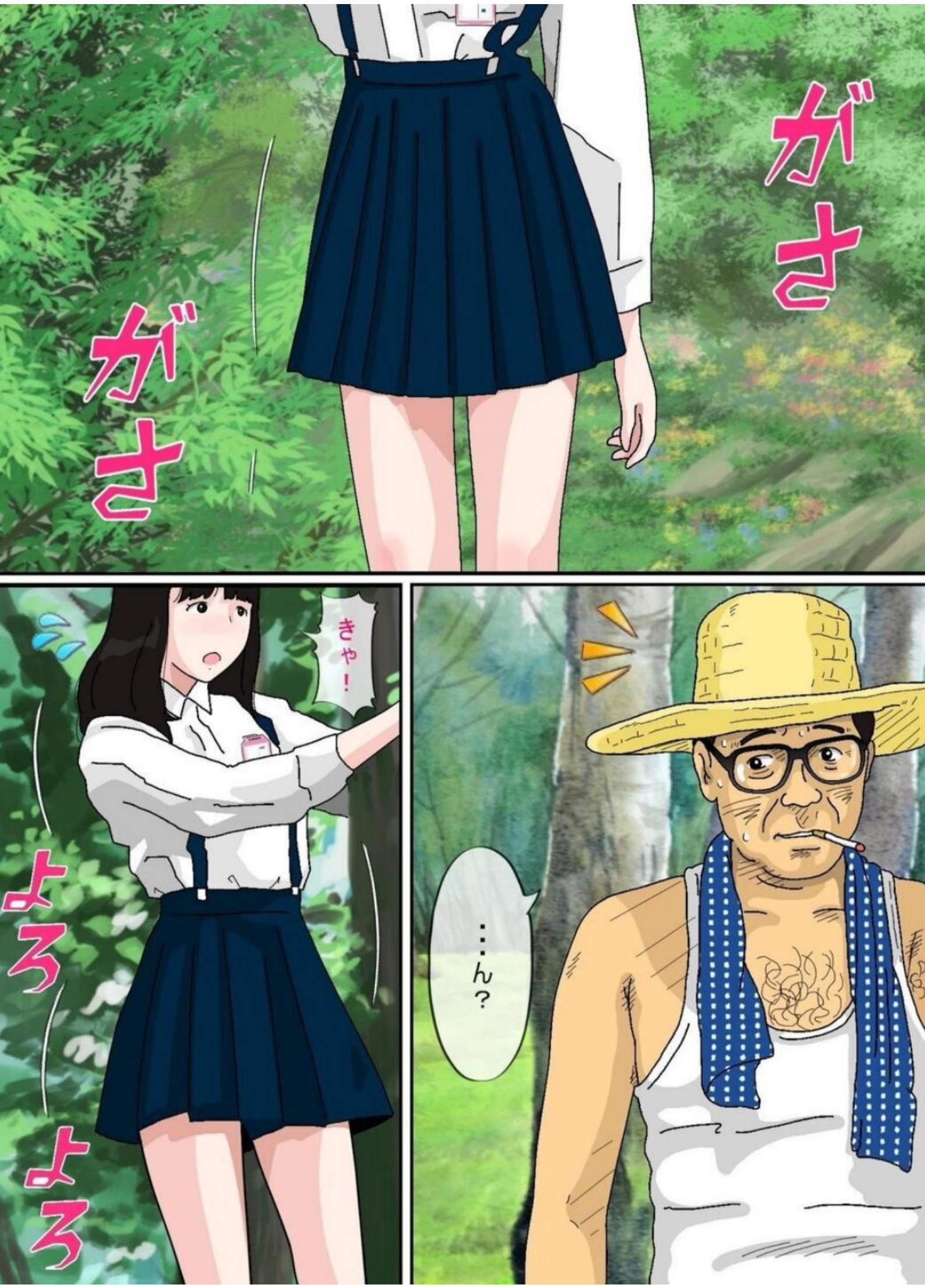
俺は四十歳、妻子アリ。

子供とカブトムシを捕りに行くはずだったんだけど、子供が夏風邪を引いて結局俺だけがカブトムシ捕りに行くことになった。

車で一時間かけて山にカブトムシを捕りに行ったわけなんですが・・・・

・・・(涙)二時間探したけど全然いなくてあちこち探し回っていた。

会社の同僚に、
ここが穴場だと聞いて
来たのに全くいない
困ったぞこりゃ。
みーん
みーん
諦めて少し休憩して
いた時・・・・。
みーん
みーん
ふう
・・・全く
セミしかいない
じゃねーか。


ガさ
ガさ
きゃ！
よろ
よろ
…ん？

諦めてタバコを吸ってたら……

山道を一人の女の子が歩いてきた。

え！

こんな山の中を女の子が何故？

あ！

良かったー！！

がさ

がさ

その子はどうやら道に迷ったらしい
名前は香苗ちゃん。
[redacted]で[redacted]歳。

香苗ちゃんは夏休みでこの辺りに住む従妹の家に遊びに来て、従妹とこの山で遊んでたけど従妹が先に帰ったから一人で遊んでたら道に迷ったとの事。

だったら、オジサンが休憩終わったら送ってあげるよ。

うん。

くるくる

うふふ。

香苗ちゃんは明るく元気な子で[redacted]歳だけど[redacted]に見えるし、身体がムチムチしてます。

竹とんぼかぁ、懐かしいな。

うん、お父さんが作ってくれたの。

くる

くる

香苗ちゃんは
ミニスカート。
ムチムチした太ももが
たまりません！
本当に最近の
発育がいいな。
恐らくこの制服も
この子の成長が早くて
スカートの丈も短く
なってしまったんだろう。
ふう
ふう
オジサン
早くぅ～。
疲れちゃった？
!!
パンツが、
：：見える！
少し休んでも
良いよ。

と言うか、座ったり屈んだりするとスカートが短いので勝手に見えてしまうのです。
少し休も！
にこ
純白で汚れのないパンツ……。
よいしょ！
すっ
香苗ちゃんは俺に自分の真っ白なパンツを欲望の視線で犯されてる事に全く気が付いない様子だった。
オジサン休んだ？行こ！
！
んっ？あっ、あぁ……！

香苗ちゃんは喉が渇いたと言うので途中にあった神社によって休憩することにした、
この上に水があるのー？
またこの神社の階段は凄く急で前を上っている香苗ちゃんのパンツがずっと見放題なのである。

あぁ、そうだよ。
はぁ
はぁ
香苗ちゃんが階段を上るリズムに合わせてスカートがひらひらと舞いパンツが見え隠れする。とてもエロい。
むらー
むらー

自分の子供と同年代の子に欲情するとか正直罪悪感も感じる…。
疲れたぁー。
ふぅ
ふぅ
しかし…、これは…。

良い気持ち！

ばっ
やったぁー！着いたっ！
たん！

俺には一人、息子がいるが女の子がこんなに可愛いと思わなかった。
ふふ

しかし、それとは反対に成長途中ではあるが、発育の良い■■■の身体をめちゃめちゃに舐め回して、セックスをしたいと言う、どす黒い欲望も生まれていました。
凄く静かな所だねオジサン……。
そうだね。あっ、ちょっと水を汲んでくるからね。
うん。

ふう
あー、疲れたぁ。
もぅ、足が痛くなっちゃったよ。
あはは、オジサンもだよ。
こぽこぽ
はい、どうぞ。
わぁ～、ありがとうオジサン。

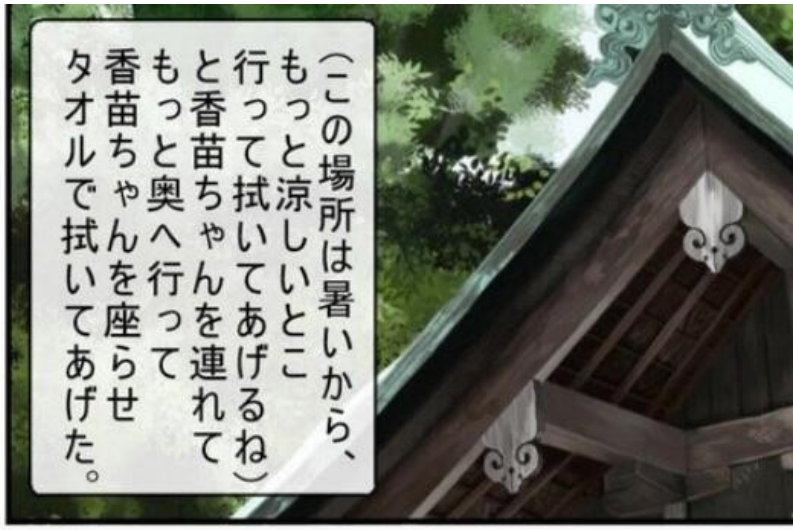
美味しいかい？香苗ちゃん。
じとー
うん、凄い冷たくて、美味しい！
ふぅ
こくこく
俺は水を渡す時に、香苗ちゃんの太ももに軽く触れたりした。
さわさわ
やはりムチムチして弾力のある太ももでした。
オジサンもう一杯ちょうだい。
あぁ、良いよ。

こぽこぽ
香苗ちゃんは喜んで水を飲んでました。その時俺はイタズラを思いついたんですね。
ひらー
ひらー
水を飲ませる時にわざと香苗ちゃんの太ももも辺りにこぼしました。
ばっ
ばしゃ
きゃっ
あっ
あっ

あ！ごめん、ごめん！こぼしちゃった！
オジサン、駄目じゃ？（笑）あ？っ！香苗のパンツまで濡れちゃったじゃん！
香苗ちゃんは少しムスッとしていました。
もぅ～。
あ～ぁ、乾かさないと、ビッショリ、だよぉ～。
意外と水は広範囲にかかってしまい香苗ちゃんの下着が透けてしまうほど濡れてしまった。
：：ん？っ！何より驚いたのは、香苗ちゃんが自分から服を脱ぎ始めた事です。

すっ
オジサンしか居ないし、脱いで乾かしちゃうよ。
ぱち
そう言って、香苗ちゃんは服を脱ぎ始めました。
思わぬ展開に俺はもう、理性を保てなくなっていた。香苗ちゃんの肌は真っ白で日焼けなど全くしていなかった。
なんて綺麗なんだ・・・！
ぱさ

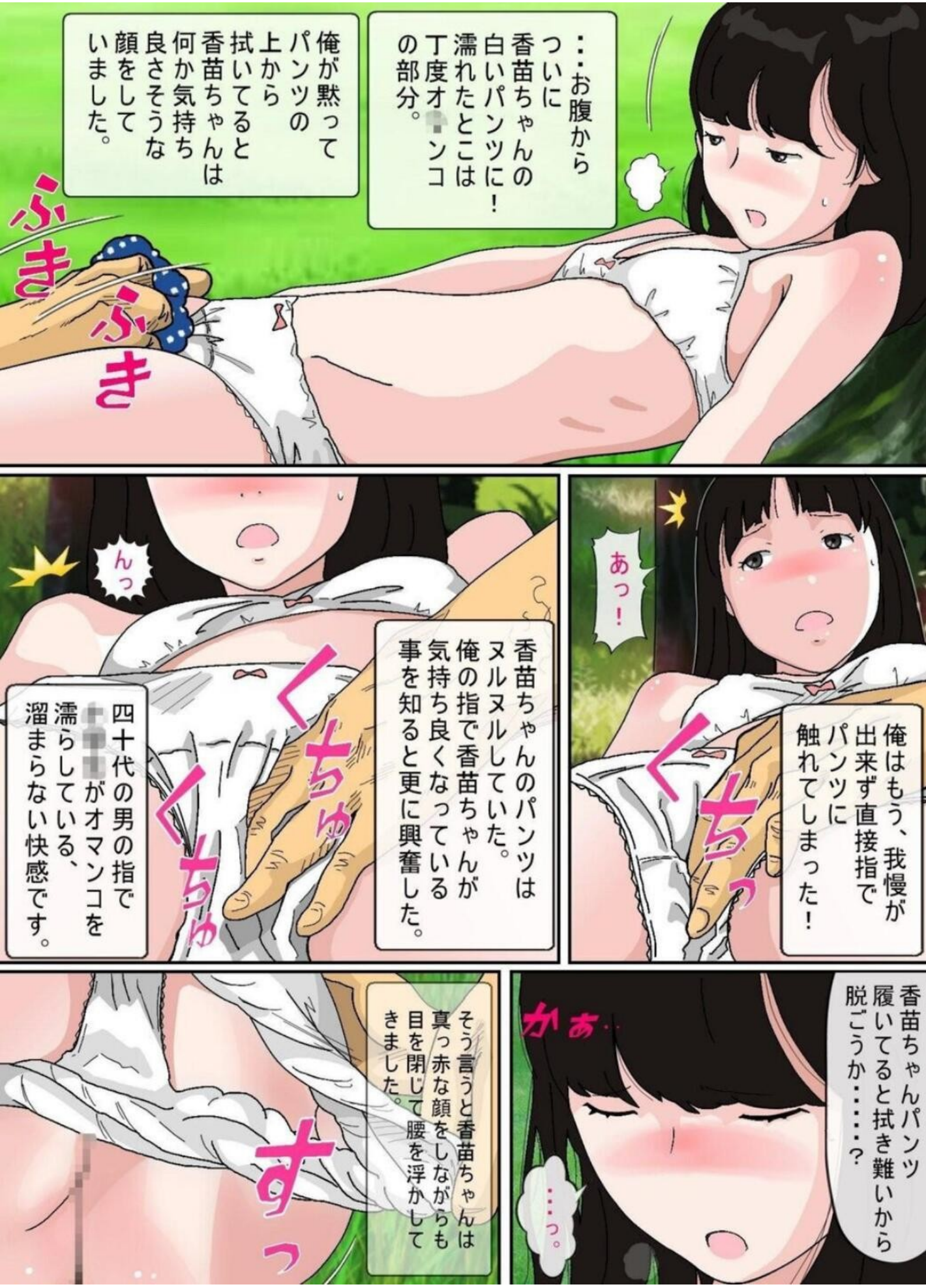
香苗ちゃんは
目を閉じて
いました。


（この場所は暑いから、
もっと涼しいとこ
行って拭いてあげるね）
と香苗ちゃんを連れて
もっと奥へ行って
香苗ちゃんを座らせ
タオルで拭いてあげた。

頭から、肩、腕……。
……そして、
徐々に成長を始めた
膨らみかけたオッパイを
丹念に拭いてあげた。
子供用ブラの上からでも
小さいながらもその
柔らかさは充分伝わって
きた。
ふき
ふき

そして、拭く手は更に下へ、
ムチムチの弾力のある太ももを
しつこく撫でまわす様に
拭きました。
それでも、香苗ちゃんは
じっと目をつむって
大人しくしていました。
ふき
ふき

俺のチ■ポは既に
ギンギンに勃起していた。
ぎん
ぎん


：：お腹から
ついに
香苗ちゃんの
白いパンツに！
濡れたとこは
丁度オ■ンコ
の部分。
俺が黙って
パンツの
上から
拭いてると
香苗ちゃんは
何か気持ち
良さそうな
顔をして
いました。
ふきふき
あっ！
くちっ
俺はもう、我慢が
出来ず直接指で
パンツに
触れてしまった！
んっ
香苗ちゃんのパンツは
ヌルヌルしていた。
俺の指で香苗ちゃんが
気持ち良くなっている
事を知ると更に興奮した。
くちゅ
くちゅ
四十代の男の指で
■■がオマンコを
濡らしている、
溜まらない快感です。
香苗ちゃんパンツ
履いてると拭き難いから
脱ごうか……？
かぁ…
…っ。
そう言うと香苗ちゃんは
真っ赤な顔をしながらも
目を閉じて腰を浮かして
きました。
すっ

俺はドキドキしながらも素早く香苗ちゃんのパンツを脱がせた。目の前には■■の綺麗なオ■ンコが！
ころん
…あっ

おぉっ！すげっ！
俺は指に唾液を付けて香苗ちゃんのオ■ンコを広げたり触りまくりました。

(嬉)香苗ちゃんは、全く陰毛はまだ生えていなかった。綺麗なタテスジ。

ぷちゅ
ちゅく
あっ
あっ

くちゅ
あっ

ぴくっ
んっ

ぐに

オジサン、何かしてんの……？ちゃんと拭いてる？
あんっ
ちゃんと拭いてるよ、だから目を閉じてて。
そう言うと香苗ちゃんはまた目を閉じたので、再びオ■ンコを舐め舐め。
ぴく〜〜ぴくん
ぴくっ
んっ
ぷちゅ
ちゅく
ゆ
あっ
くう
くちゅ
ちゅぷ
ぷ
んっ
香苗ちゃんが喘ぎ声を出したのでビックリ！処女でも舐められると気持ちが良いんだ……。
ちゅぷ
くちゅ
ゆ
あぁ
あん
俺は、香苗ちゃんの幼いオ■ンコを気が済むまで味わいつくしました。
つぅ〜〜
ひく
ひく

俺は香苗ちゃんをうつ伏せにさせ、肛門の匂いを思う存分嗅いだり
すーはー、すーはー。
くんくん
……あっ！オジサンっ？…やだぁ～。
さっき、散々いじくりまわしたオ〇ンコを観察し広げたり、閉じたりしつこく舐めまわしました。
くちっ
んっ
ぐちゅぐちゅ
あっ
ぷちゅぷちゅぷちゅ
あん
あっ
あっ
ぬちっ
香苗ちゃんはとうとう、ブルッ！っと身体を震わせイってしまいました。
くふぅ!!
びくん
ぶるっ
びくん
あ――…
つぅ――
ひくっ ひくっ

香苗ちゃんは
状況を把握して
いるみたいです。
顔を真っ赤にして
大人しく横に
なっていました。
とにかくこの柔らかく
幼い肉体をもっと
味わいたい、舌を這わし、
舐め上げ、吸い付きたい、
という激しい欲求が
体の奥底から
湧き上がっていました。
俺はパンツとズボンを
下し、香苗ちゃんに
覆いかぶさりました。
びき
びき

こんな事して
ごめんね、
香苗ちゃんが
可愛かった
もんだから。

香苗ちゃんの
乳房は雪の様に白く、
[redacted]らしい
慎ましい膨らみの
頂点には、
桜色の乳首があった。
ふに
ふに
陥没乳首・・・。
あっ

ちゅう
ちゅう
やっ、あぁんっ
まるで誘うようにフルフルと
震える膨らみに、俺は
むしゃぶりつきました！

興奮した俺は乳首を
チュバチュバと何度も吸い上げ
舌先で激しく弾いた。
ちゅば
ちゅば

ちゅぽん
あぁ・・・美味しい・・・
何でこんなに
美味しいんだ・・・！

そして、弓なりになったチ○ポを香苗ちゃんの顔に近づけました。

俺は気の気のすむまで香苗ちゃんの身体を楽しんだ後に、自分の正面に座らせた。

香苗ちゃんのお口で綺麗にしてくれるかい？

香苗ちゃんは熱心に口を動かしている。ヌルヌルとした感触が快感を高め、なにより○○の女の子にチンポを舐められている事に興奮を覚えた。

うん、良いよ。

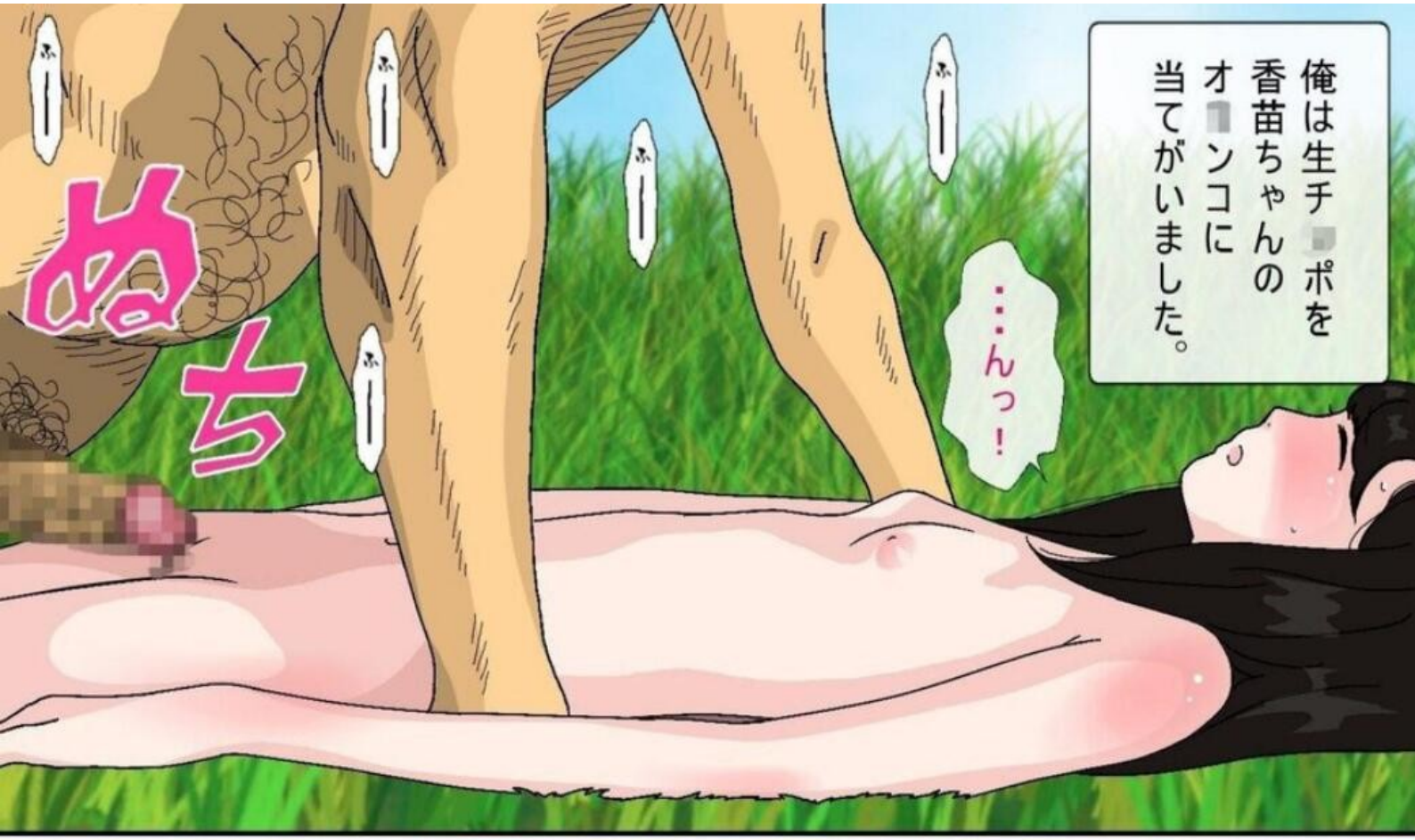
真夏の朝から長時間ズボンの中で蒸れ蒸れになった俺のチ○ポは物凄い激臭になっていました。

臭い？

……うん臭いよ。

香苗ちゃんの幼い顔が己の醜悪なチンポを咥え込み、その小さな唇から出し入れしている様は、背徳的な興奮を誘った。

俺は思わずチンポを香苗ちゃんの喉奥深くまで突っ込んだ！


俺は生チ■ポを
香苗ちゃんの
オ■ンコに
当てがいました。
…んっ！
ぬち

すぐ済むから
我慢してね。

ぐっ
香苗ちゃんは
ニコっと微笑み
ながら頷きました。

あっ

ずぶぶ
チ■ポをオ■ンコに入れて
行くと香苗ちゃんは目をカッと
開けましたが、俺は構わず
マ■コの奥までチ■ポを入れました。

あっ
んぐっんぐっ
あん
あっ
んっ
ぐっぐっぐっぐっ
チ○ポから伝わってくる溜らない快感に、俺の意識は一瞬飛んだ。暖かくヌルヌルとした快感は、チンポをギュッと包み込む圧迫感があり、それが強烈な快感となって俺を追いつめて行きました。

ちゅうちゅばっ
乳首を吸っていると甘い味がし、そのコリコリとした感触は今まで経験したことのない気持ち良さを口内に与えた。

初めて体験する○○の膣は、信じられないほどの気持ち良さでした。
ちゅぷちゅぷくちゅぷっ

ちゅくっ
んんっ

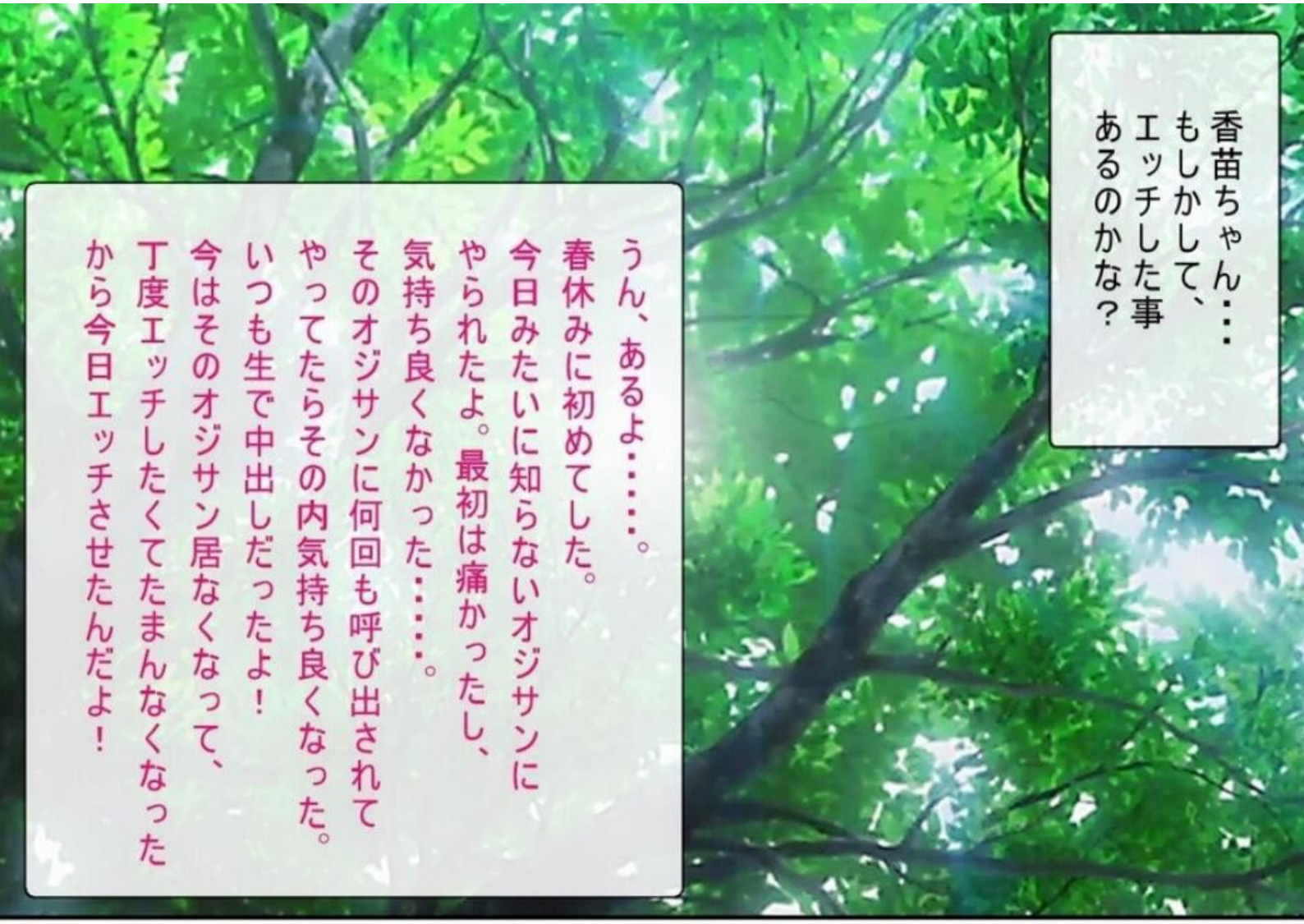
香苗ちゃん！
そして俺は香苗ちゃんに思い切りキスをしました。ニュルリと口の中に舌を入れネチネチと絡ませました。
んっ

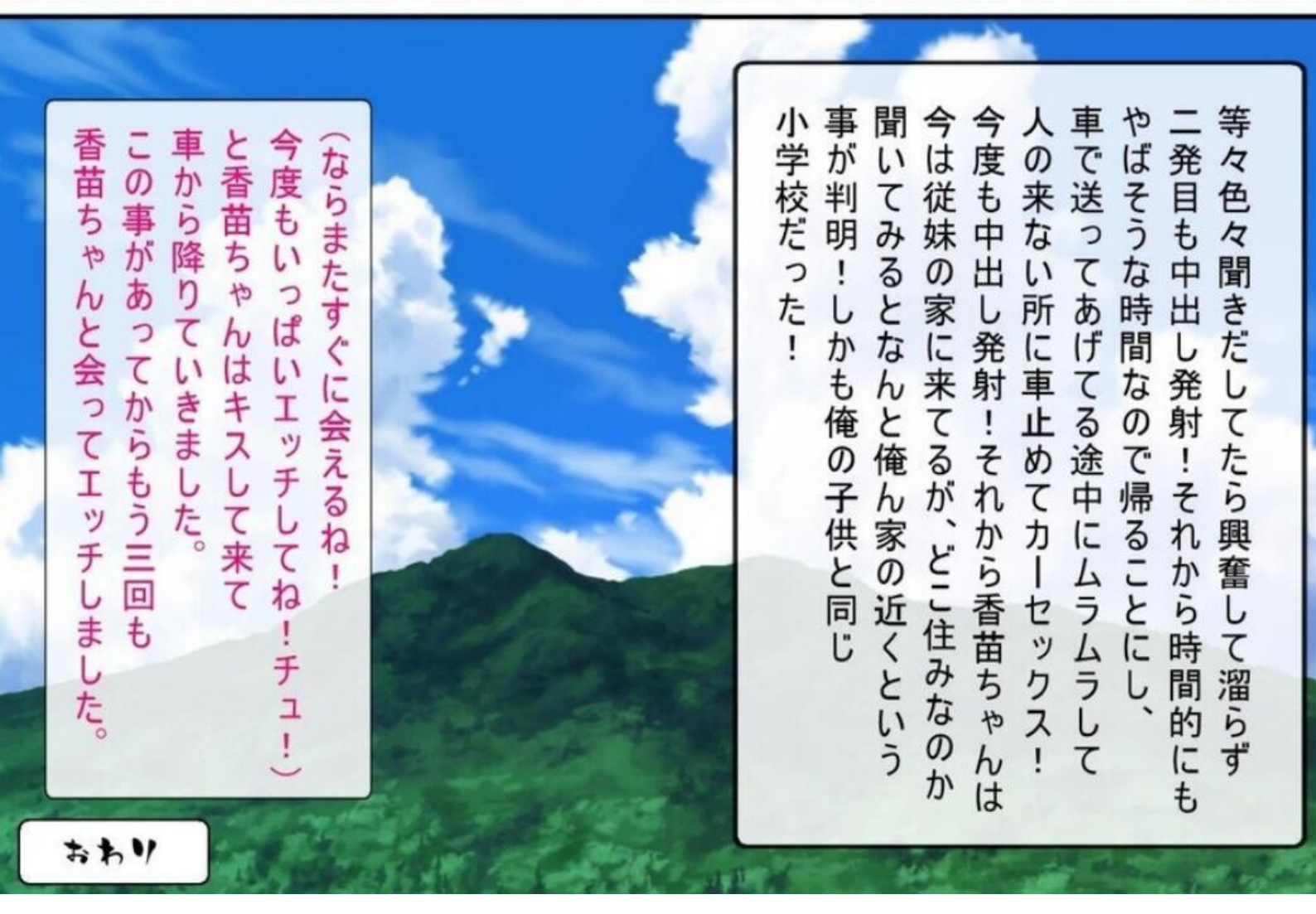
痛くない？大丈夫？
大丈夫だよ、オジサン遠慮しないでもっと腰動かして良いよ！

ぬるぬるぬる
香苗ちゃん、今度は後ろから入れるよ！
ふー
ふー
んっ
びくっ
びくっ
ずっ
ずぶぶ
んあっ
ぱんぱんぱん
香苗ちゃんは上下に頭を揺らし、髪を振り乱しながら悶えている。俺はその様子に興奮しながら狂った様に腰を動かしました。
あ
あ
あ

あっ、はっ、はぁんっ……こんな、あぁっ……っ凄い、オジサ…ン。
あっ
あっ
やっ
ぷちゅくちゅぷっ
肉棒と膣の擦れるちゅぷちゅぷといったイヤらしい音が静かな神社に響く……。
ぷっぷっぷっぷっ
くぅ…んっ！
んっ
んっ
ちゅくくちゅぷちゅ
んっ
あっ
くぅ
あっ
…イっちゃう…あっ、はぅっああぁんっ…
あん
くちゅくちゅくちゅぷちゅ
膣がギュッと締まりチ●ポを強烈に掴んできます。今まで以上の快感が起こり、俺は急激に射精感が高まるのを感じました。
か、香苗ちゃんっ、オジサンも…イキそうだよ！

ぱんぱん
ぱんぱん
あっ
あっ
あっ…!
イッちゃうぅ
…やぁあ
ああんっ!
うぉっ、出るっ…
出るぅっ…!
どくん
どくん
どく
あが あ!!
あぁ~
!!
ずるん
ひく
はぁ
はぁ
はぁ
俺は初めて
[redacted]とセックス
した満足感と、
信じられない
ほどの射精の快感
に暫く浸って
いました……。

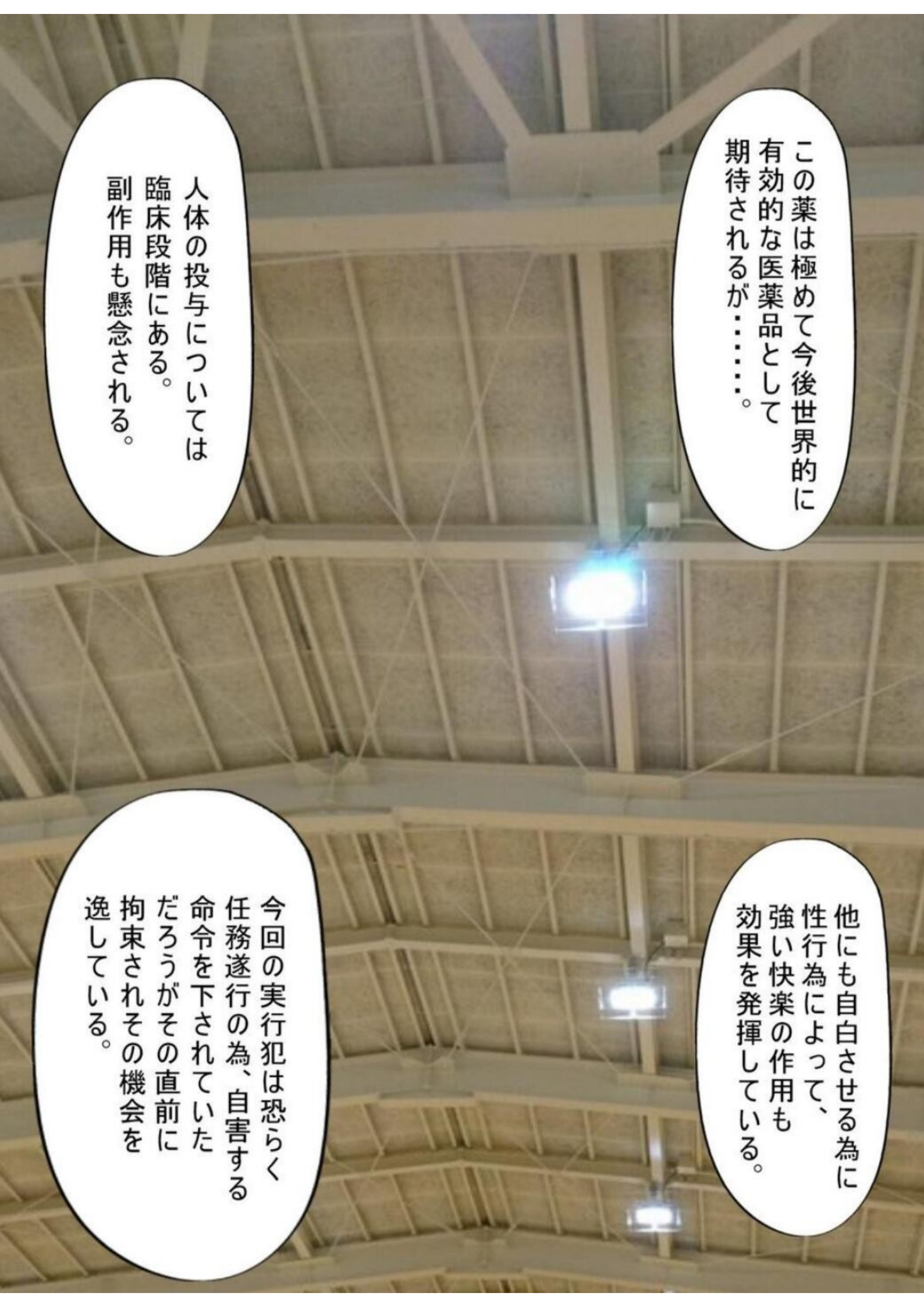

香苗ちゃん…
もしかして、
エッチした事
あるのかな？
うん、あるよ……。
春休みに初めてした。
今日みたいに知らないオジサンに
やられたよ。最初は痛かったし、
気持ち良くなかった……。
そのオジサンに何回も呼び出されて
やってたらその内気持ち良くなった。
いつも生で中出しだったよ！
今はそのオジサン居なくなって、
丁度エッチしたくてたまんなくなった
から今日エッチさせたんだよ！


等々色々聞きだしてたら興奮して溜らず
二発目も中出し発射！それから時間的にも
やばそうな時間なので帰ることにし、
車で送ってあげてる途中にムラムラして
人の来ない所に車止めてカーセックス！
今度も中出し発射！それから香苗ちゃんは
今は従妹の家に来てるが、どこ住みなのか
聞いてみるとなんと俺ん家の近くという
事が判明！しかも俺の子供と同じ
小学校だった！
（ならまたすぐに会えるね！
今度もいっぱいエッチしてね！チュ！）
と香苗ちゃんはキスして来て
車から降りていきました。
この事があってからもう三回も
香苗ちゃんと会ってエッチしました。
おわり

囚われた少女
工作員
こたつぶとん

隣国特別収容所護送中。
ガガガ
ガタガタ
……。
大人しくしてろよ。
キキーバタン
よしっ！降りろ！

オラ！こっちだ！
バタバタ
ダッ
いやっ！離して！
よしっ！
そこに寝かせろ！
うぅー！
ふふ。
ぴゅっ
プッ
うう～!!
!!
効いてきたな。
：よし、よし。
はぁ
はぁ
あぁ…
私が開発した
ネフェロムと
言う薬品だ。
極度の
鬱症状や、
自殺願望者の
脳の伝達を
遮断する効果
がある……。


この薬は極めて今後世界的に
有効的な医薬品として
期待されるが……。
人体の投与については
臨床段階にある。
副作用も懸念される。
他にも自白させる為に
性行為によって、
強い快楽の作用も
効果を発揮している。
今回の実行犯は恐らく
任務遂行の為、自害する
命令を下されていた
だろうがその直前に
拘束されその機会を
逸している。

工作隊兵士　日本人■歳
普通に公園で一般人と紛れて遊んでいた所を拘束した……。
久しぶりに家族と過ごすのを許されていたのか本人も油断していたのだろう。
しかし、こんなガキが実行犯なんてなぁ……、全く驚きだ……。

なるほど・・・。
奴らは自分で命を絶つ事は出来ない。
そう言う概念が脳内から消え失せたと言うだけなのだ。
何をされても覚悟してると言うわけか。
我々にファックされても良しと思ってるわけだ。
大した薬品だ。
そろそろ完全に効いてきた頃だろ。
あの位の娘を思いっきり犯したいと思っていた。
拷問で情報を聞き出す事も可能となる筈だ。タップリと全員で楽しませてもらいますよ・・・・・。
早速始めてくれたまえ。
ふふふ
くくく・・・

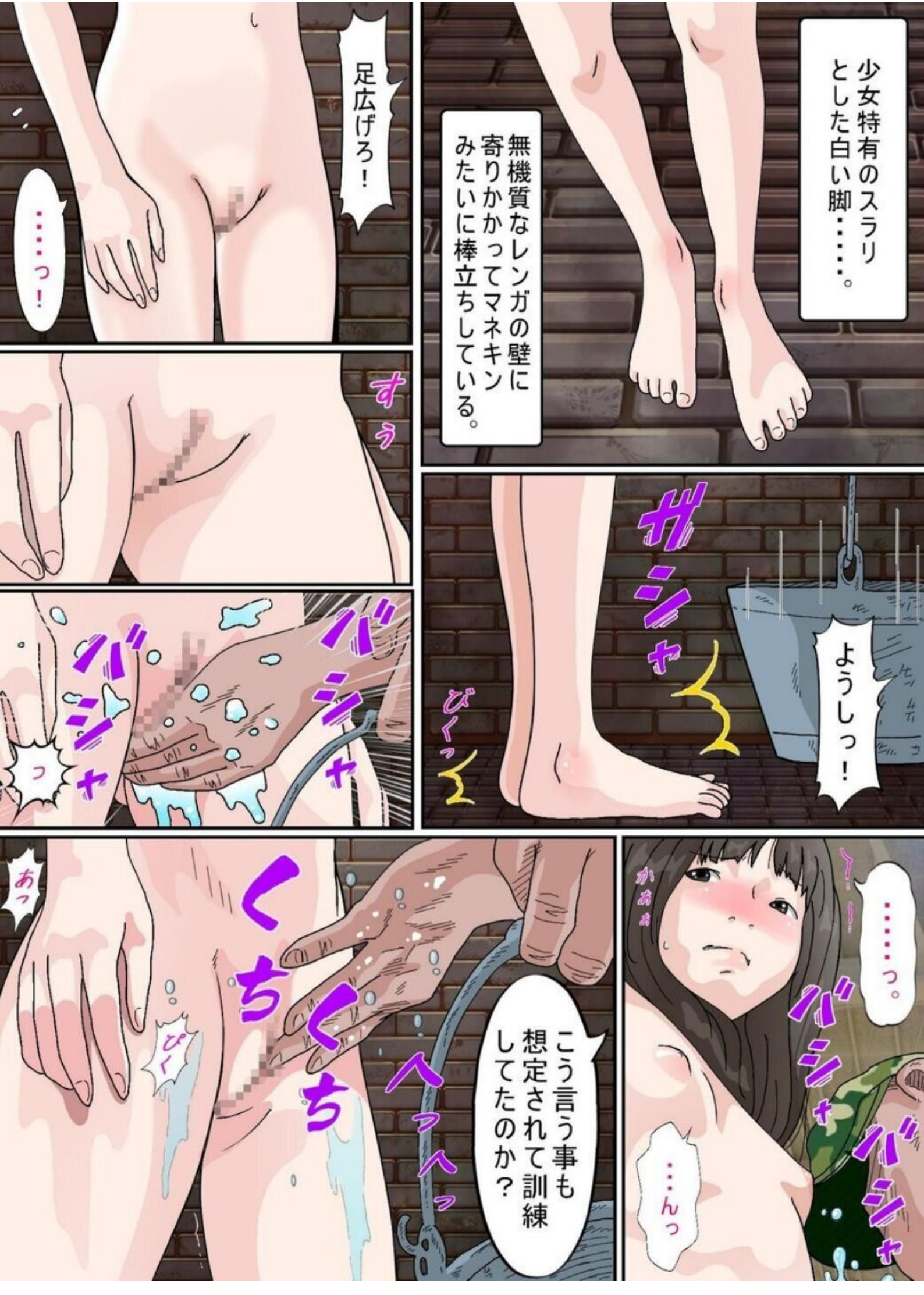
取調室兼拷問部屋
入れっ！
……。
…可愛いな。
!!
脱げ！
……。
親父とファックした事あるか？兄貴とは？
学校の男共とはどうだ…？
グッ
……。
すっ…

訓練を受けていた親からも聞いていただろう…？
する…
……。

お前も捕まればこうなると解ってたろ。
くくく。
ぐっ

全体的にまだ骨っぽい身体つきだがそれがソソルな……。
ずいっ
へへへ

乳が膨らみ始めた女が工作員とはな。
さっ


少女特有のスラリとした白い脚……。
無機質なレンガの壁に寄りかかってマネキンみたいに棒立ちしている。
足広げろ！
……っ！
すぅ
ようしっ！
ガシャ
びくっ
バシャ
バシャ
バシャ
っ
……っ。
バシャ
バシャ
……んっ
こう言う事も想定されて訓練してたのか？
あっ
くちくちくちくちっ
びくっ

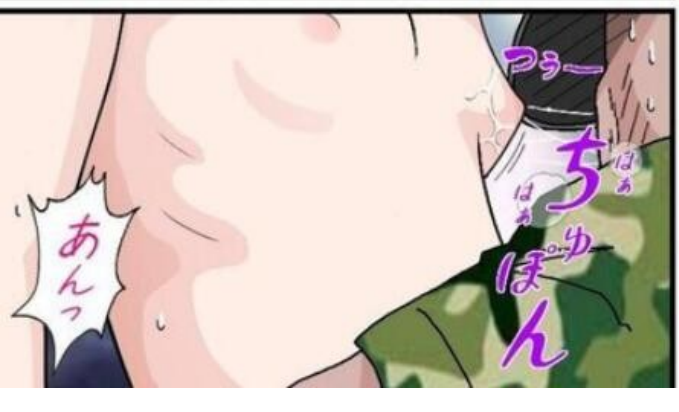
お前の家族は何処に隠れてるんだ？
ガシ
ガシ
ぐら
ぐら
答えろ！
……っ。
ビクッ
すう
…答えないか。
…ようし。
はあ…べちゃ
ぞわ
ひっ
はあぁ～……
ぞわ
ぞわ
れろお～…
びちゃべちゃ
くうっ

はぁ
はぁ
あ…
ベロ出せ！
はぁ
はぁ
……っ。
はぁ
はぁ
ぬちゅっ
んぐ
ぬちゅ
にちにち
はぁ
はぁ
ちゅく
ちゅく
じゅるじゅぶじゅる
〜うっ〜
ふぅー
ふぅー
ちゅるちゅば
ちゅば
ちゅば
んぐ、んぐ！
うぐぅ〜…
ふぅー
ふぅー
ぢゅうぅぅ
んんっ
ぷはぁ
はぁぁ——…
にっちゃあ
くっ!!
もしかして、初めて接吻したのか〜？くくく。
ごしごし
〜うぅ…

ぴくん
んっ
ふぅー
ふぅー
膨らみかけ最高だぜ。
ぴちょ

……。
はぁはぁ
お前は特殊な薬品を
投与されたんだ。
自害は出来ない！
何処まで耐えられるかな？

あぁ…、[redacted]生の
オッパイ……。
ちゅば
ちゅば
ちゅる
んっ
ぢゅう
あっ


つぅー
ちゅぱ
ちゅぱん
あんっ

ぴくん
んぐんぐ
ぢゅう
ちゅう
ちゅう
ぢゅう
んちゅ
あっ
くぅ
ぴくっ

台の上に乗れ！
……。

ようし！
タップリと可愛がってやるぜ！
ギシ

手足を広げろ！
はっ！
ガシッ
一番は俺だ！
バッ!!!
!!
マンコが丸見だぜ。
ヒヒヒ…
ビキ
ビキ
しっかり抑えてろよ！

流石工作員。
ずい
泣くわけでもなく
黙って耐えてるとは
やはり大したもんだ。
だが何処まで
耐えられるかな？
ぐっ
イギッ
かはっ!!
ふんっ!!
ズブ!!

ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
オラ！どうだぁ？
あっ
はっ
ギシ
ギシ
あっ
はっ
んっ
はっ
やっ
くちゅ
ぷちゅ
ちゅぷ
はっ
はっ
ギシ
あっ
あっ
ギシ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
あん
はぁ
はぁ
あっ
あぐ
ギシ
ギシ
コイツちょっと感じ始めて来てんてんじゃねーか？
俺の極太包茎チンポに感じてんだよ。

あがぁぁ、中に出すぞぉ！
びく
ぶるぶる
どくどくどく
タップリ中出ししてやったぜ。
ようし！二番は俺だ！
ぱぁ——
〜〜っ
ぱぁ——
うっ
グイッ
かちゃかちゃ
へへへ。
ビクッ
ビクッ
ブチ込んでやるぜ！
ズッ
そうらっ！
〜うぅ〜
ズブウ
よっ!!
あがっ

ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
あっ
くふ
んっ
はぁ
あっ
はぁ
ザク
ザク
くちゅ
んふ
はっ
ぷっ
ぷっ
ちゅく
はっ
あっ
はっ
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
あぁ～…！
ぎもぢい！
あぐぁ～！
チンポコが
トロケそう
だぜっ！
あっ
ザク
あっ
ザク
出る！
出る！
ザク
あっ
ザク
あっ
ずるん
はぁ―
はぁ―
ひくっ
ひくっ
はぁ―
おあぁ…。
ぶるる
どくどくどく
あがぁ

三番は俺だぁ！
これだけ犯されても
耐えるとはな！
ビーン
拷問しがいが
あるってもんだ！
あぐ
ぐっ
ズリブリ
んあっ!!
ふんっ
あっ
あっ
ぐっ
ぐっ
くちゅ
ちゅく
ギシ
あっ
ギシ
オラッ！
さっさと
仲間の場所
吐いて楽に
なれよ！

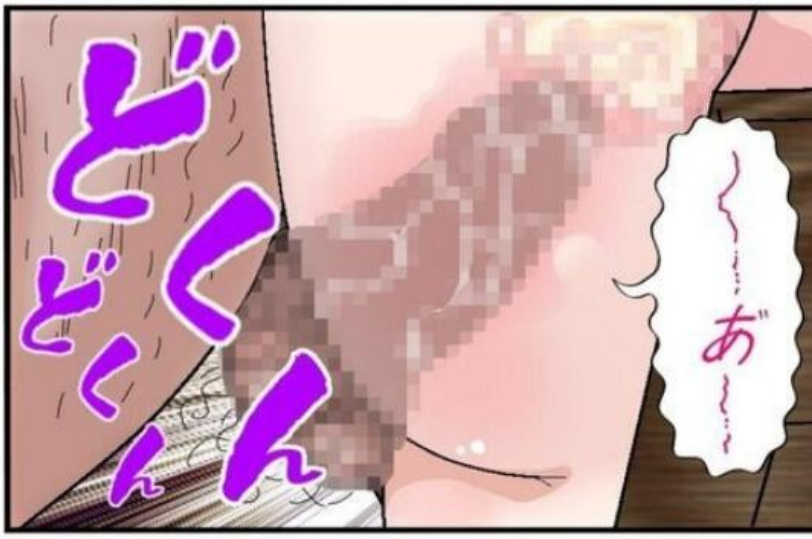
ガシ
ひっ
接吻しながら出すのが好きなんだ俺は！
ぶちゅう
ぢゅるる
どく
どくどく
うぐぅ
中にタップリ出してやる！
のるん
ひく
ひく
ひく
ズブウ
まだまだ、これからだっ！
ふぅー
ふぅー
四番目は俺だっ！
ぐっ
…もう
やめ…
ぐっ
ぐっ
ぐっ
あがあ!!
早く言え！
ぐっ
…っ

あっ
しぶとい
ガキだ！
あっ
膣が小せえから
簡単に当たるぜ！
パンッ
パンッ
ぷっ
ぷっ
パンッ
パンッ
あっ
ギシッ
ギシッ
あっ
あっ
あっ
パンパンパンパン
あっ
ちゅく
くちゅ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
くちゅ
ちゅく
はぁ
はぁ
はぁ
……っ！
その固い口に
包茎チンポを
突っ込んで
やる！
ずい
はぁ
ぷぅ〜ん
はぁ
ずぼっ
おごっ

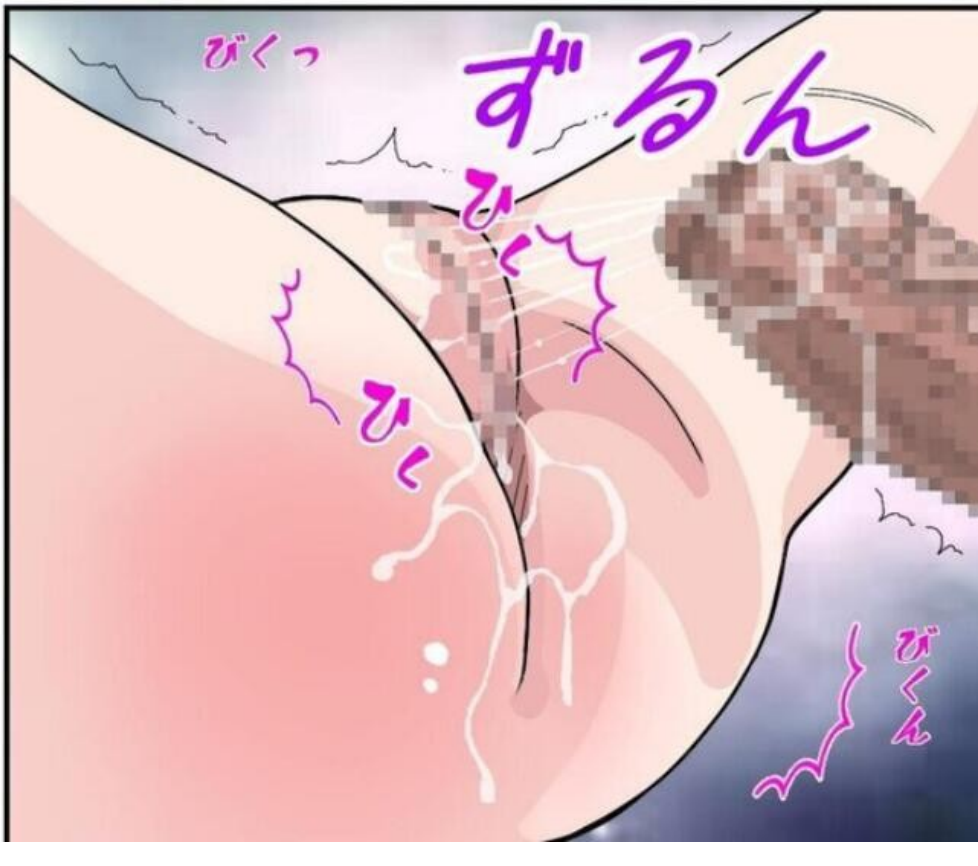
チンカスまみれのチンポコのお味はどうだ？
おごお
くちゅぷちゅぷっぷっちゅくぷちゅ
んっ
ぐっぷっぷっぐっ
んっ
ぱっ
ぱっ
ぱっ
ぱっ
んっ
おごっ！おうっ！
だ〜〜…
ふぐ
ぐぐぐぐぐぐ
ザタ
くちゅ
くちゅ
口とマンコにぶちまけてやる！
んふ
んっ
くちゅ
ぐぐぐぐぐぐ
ザタ
出る出るっ
ぷっぷっぷっ
ぎゅうぅ
ぐうっ

どぷ どく
おぶ
どく どぷ
おあぁ
どぷ
あぎぃっ
どぷ どく

のるん
ぁ～


どくん
どくん
ぁ～

余程完璧な訓練を受けているようだな！
良し！次！
おわり


びくっ
ずるん
びく
びく
びくん

夏の公衆便所

こたつぶとん

風がやんで、空一面を覆った
薄い雲が、月の輪郭をかすませ。
蒸し蒸しとする夏の暑い夜。

俺はいつものように、くそ暑い
季節でもコートを羽織って
街中をウロウロしていた。

獲物を見つけた時に、自分の
包茎チンポコを見せる為だ。
俗にいう変態キモジジイって
わけだ……。

半袖の真っ白い清潔な
ブラウス。
短めの紺色スカート……。そこから伸びる
健康的できめ細かい肌のスラリとした
白い生足……。

夜の十時…、見つけた。
大抵の親は塾が終わったら車で迎えに
来るのだが、稀にシングルマザーの子供が
一人でウロウロしている時がある。

やっぱり街で見かける
天然物の小学生は…。
至高だ！

携帯に夢中になっている。

……夜の公園。
子供は腕章をしたジジイ連中が見回っている間に遊んでいればいいものを……。
自分がエロい目線で見られている事に全く気が付いていない。
声をかけてみた。
……。
シカトか、予想通り。
大人を舐め切った態度……。
……。

学校で教わっている身の守り方なんて
何の役にもたたない事を……
タップリと教えてやる！
俺はいつも自分でも醜いって思う汚いイチモツを見せ楽しんでいただけだった……。
キイ…
だが今回は違った……。
心の中がドス黒い考えでいっぱいになった……。
キイ…
犯したい！

ポロ
あっ！

キィ…
キィ…
ブランコと少女。
この光景を見てるだけで興奮する…！

携帯が壊れていないか必死に確認している。
…良かったぁ。

うっかり携帯を落としたようだ。
かがんだ時に一瞬白い下着が見えた…。

堪らん！
アセアセ

ドクン
むらーむらー
もう限界だ！俺の中で何かが壊れた…！

ふわ…
風でスカートが揺れる…。

俺は少女の手を掴み裏の公衆便所に無理やり引っ張って行った。
もうこの時間はこの辺りをウロウロしている人は居ないのも確認済だ。

滅多に使われていない公衆便所の為か清掃もされてない。凄い悪臭だ。

少女は恐怖の為、身体が硬直してマネキンのように突っ立っている。

・・あの・・・。

後ろから抱きつくと、ブルブルと少女は震えた。

俺は物凄い興奮が押し寄せてきた・・・。

・・・セックスさせろよ。

・・・えっ？

ビク

ぶる

ふ～ふ～

小さな尻を撫でたり・・・・・

さわさわ

やっ！

ぴく

服の上から小さな膨らみを

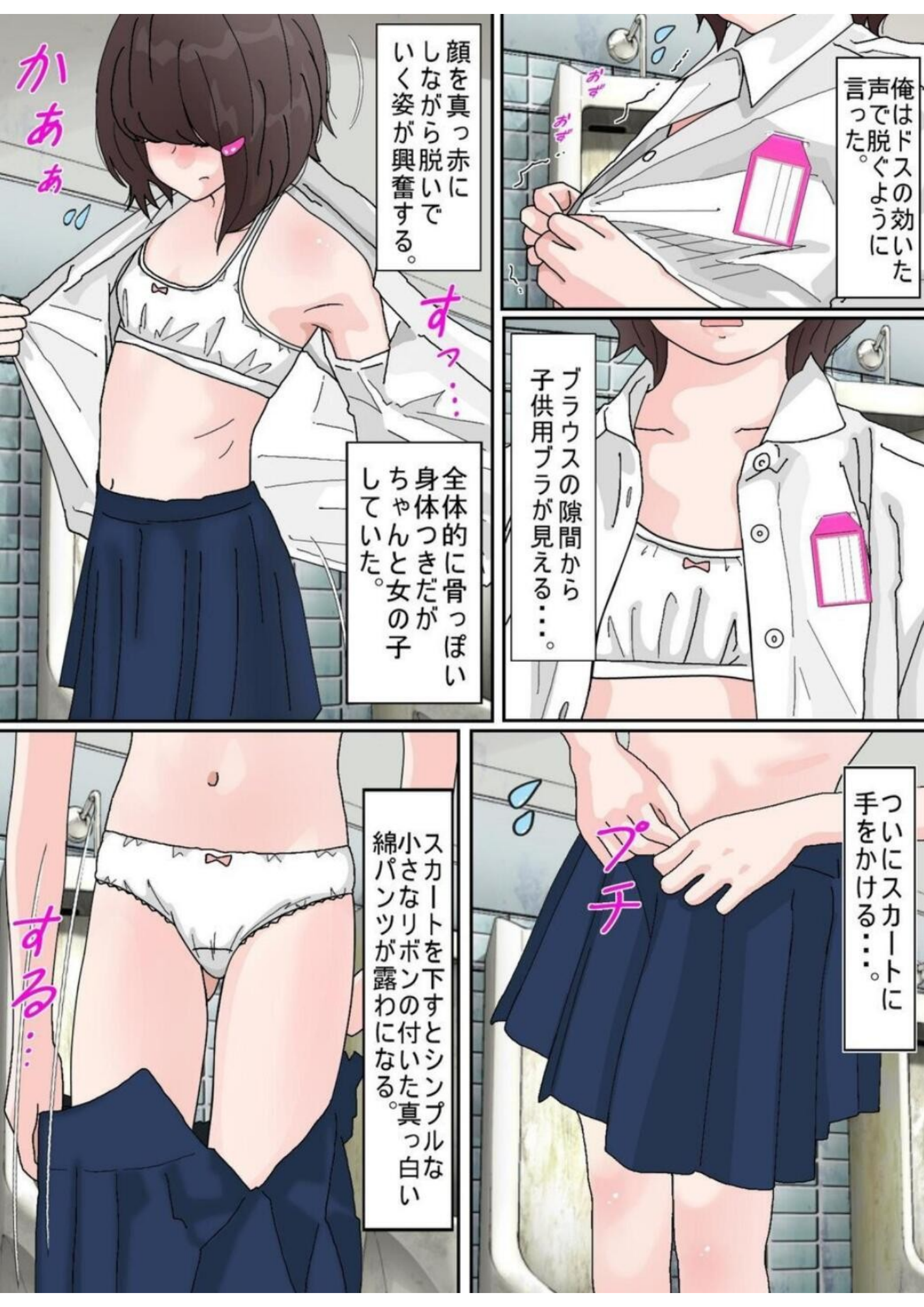
存分に味わった。

むぎゅう

もみもみ

んっ

～・・めて・・

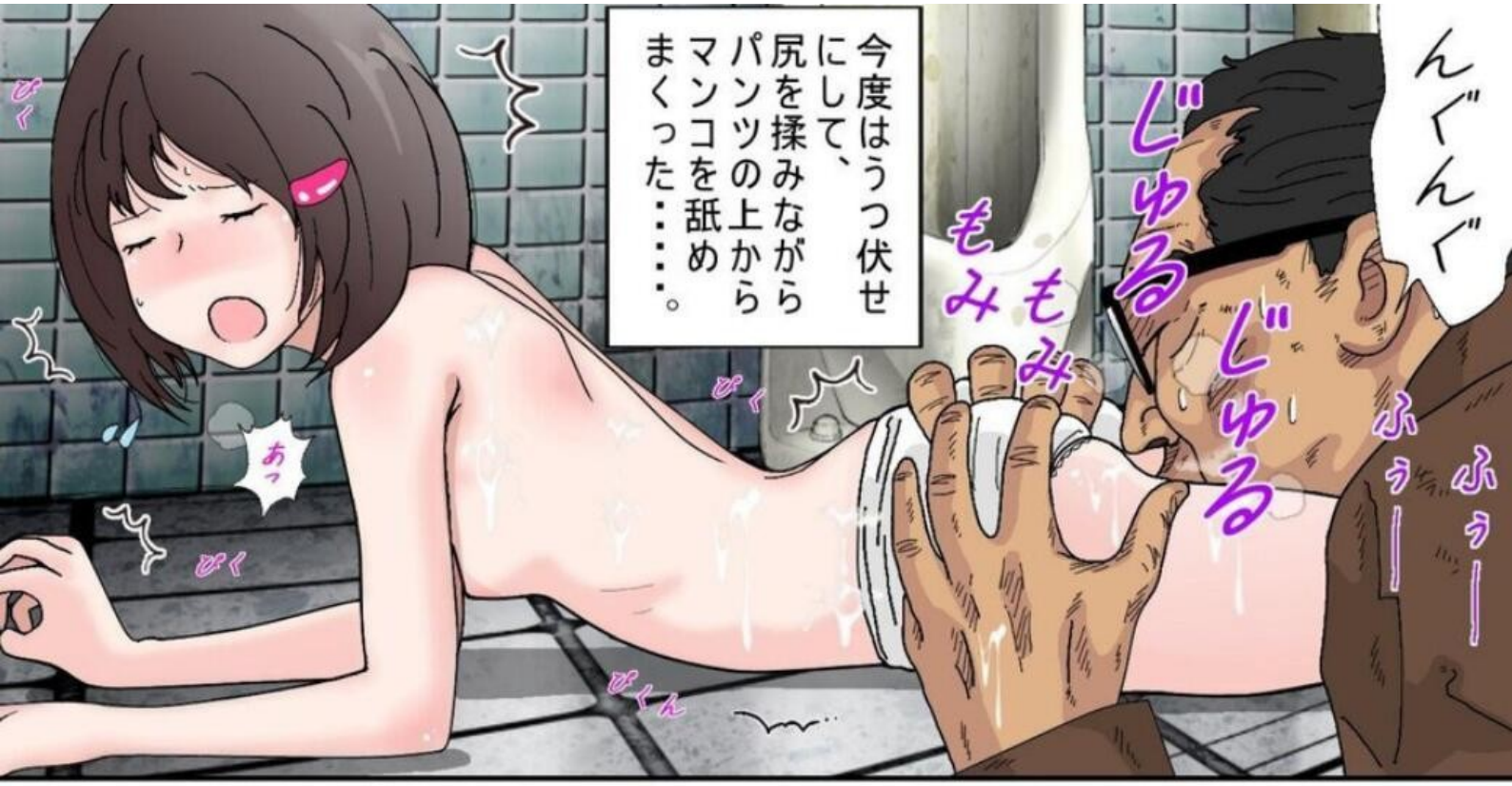

俺はドスの効いた声で脱ぐように言った。
ブラウスの隙間から子供用ブラが見える・・・。
ついにスカートに手をかける・・・。
プチ
スカートを下すとシンプルな小さなリボンの付いた真っ白い綿パンツが露わになる。
するする・・・
全体的に骨っぽい身体つきだがちゃんと女の子していた。
顔を真っ赤にしながら脱いでいく姿が興奮する。
すっ・・・
かぁぁ

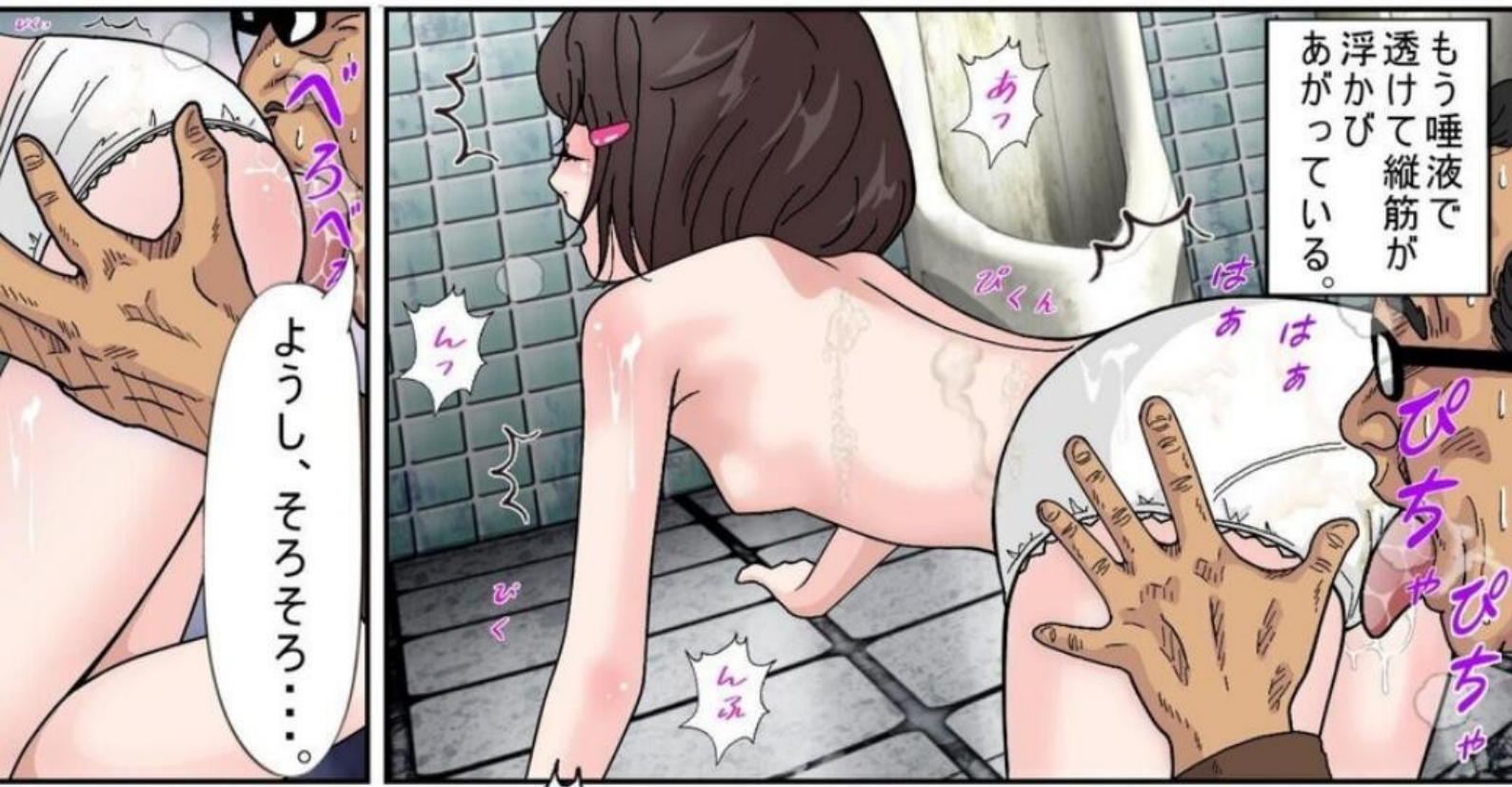
この小汚い男子便所の中に真っ白な下着を付けた小学生の女の子が立っているだけで更に俺は興奮した……。
ふぅーふぅー
……。
俺はまず、目で犯すように少女を眺めた。
……。

そしてスポーツブラの上から膨らみかけの胸を触った。布地の上からでも柔らかさは充分分り、乳首の位置も分った。
ふぅーふぅー
んっ
むにむに
子供の蒸れた体温がするパンツ超しに太股とアソコを愛撫する……。
さわさわ
ふぅーふぅー

少女の胸はブラを着けていた時よりは大きく感じたが片手で覆い被せる事が出来た。
はぁーはぁー
大人の胸とは違い、乳首は小さいものの、綺麗な薄いピンク色だ。
ふにふに
次に子供用ブラを脱がして直接膨らみかけの胸を触った。
ブルン
やあ!!
両手で胸を揉んだり
もみもみ
乳首を舌で転がしたり
れろれろ
口に含んで吸い、心行くまで小さな膨らみを楽しんだ。
じゅるじゅる
ちゅーちゅー
そして、可愛い顔に舌を這わせ顔全体を舐めまわしたり、鼻の穴に舌を入れたり、無理やりキスをした。
ずいっ
ふぅーふぅー
べろおー
ギクッ
べろべろ
ほしほし
ぢゅうぢゅう
ちゅぱちゅぱ
その後もしつこく脇を舐めたり、乳首を摘んだりした。

一時間近くネチネチと成長途中の膨らみを舐めたり、吸っていると乳首が硬くなるのが解った。
小学生でも感じるんだな……。
さわさわ
れろれろ
むにむに
ぴくっ
ふぅー…ふぅー…
いや～…やめて…
ぷる
ぷる
ぴくっ
俺は少女の言葉を無視して胸を弄び続けた。
んっ
ぴくん
ぬちゃぬちゃ
きゅっ
いよいよメインイベント。俺は身体中舐め回すみたいにパンツを目指して舌に移動をした……。
むにむに
ぎにぎに
はぁはぁ
綿パンの上からアソコを舐め回す。
むにむに
ぴちゃぴちゃ
ふぅー…ふぅー…
あっ
唾液でパンツが透けていく。
べろべろ
ふぅー…ふぅー…
あ～
自分のしてる行為に興奮する。
はぁはぁ
ぴちゃぴちゃ
俺の臭い唾液で体中ベトベトだ。
べとお～
はぁはぁ
れろぉ～
～いやぁ～ぁ～


んぐんぐ
じゅるじゅる
ふぅーふぅー
もみもみ
今度はうつ伏せにして、尻を揉みながらパンツの上からマンコを舐めまくった……。
あっ
びくん


もう唾液で透けて縦筋が浮かびあがっている。
あっ
ぴくん
はぁはぁ
ぴちゃぴちゃ
んっ
んふ
べろべろ
ようし、そろそろ……。

ついに高学年のマンコとご対面。
!!
ずるっ
きゃあ!!

綿パンツを脱ぎ終えた少女の
小さな尻を円を描くように
丹念に舐め回した。
れろれろ
ぬちゅ
ぬち
ぬちゅ
ぬち
ぬちゅ
ふぅ
ふぅ
ふぅ
ふぅ
く〜あ〜あ〜

割れ目を見ると、
遠目からでは分からないが
うっすら毛が生えていた。
ぬち…

俺は少女の割れ目を
なぞったり……
んっ
くちゅくちゅ
くちゅ
あっ

思いっきり開いたりした。
ぐにっ
くふっ

小さなクリを舌先で突いたり
最初は軽くキス……。
だめ〜
ちゅく

ぴくっ
あぴくん

その後、プニプニのふくらみを
舐めあげてから、舌先を入れ
ヌルついた粘膜を楽しんだ。
んっ
ぬちゅくちゅ
あん

自分でも触った事のないような箇所を触れて、少女はピクピクと何度も反応していた。
ちゅばぶりゅ
ちゅるぶちゅる
ちゅく
ひあんんくっ
あっ
はぁぷる
びくん
ぴく
ぴく

くちゅぷちゅぷちゅ
ふぅー
ぷっ
ちゅく
あっ

もう少女のオマンコは俺の唾液と愛液でグチョグチョだ。
あっ
んっ
あん
んぅ

粘度の高いマン汁が糸を引く。
ねと〜
ふぅー
びくっ

今度は俺の事を気持ち良くしてくれよ。
ビク
グイッ
ぼろん
〜やあ〜
!!
俺は少女の手首を掴み無理やりチンポに引き寄せた。
早くやらないと何時までも帰れないぞ。
にぎ
〜〜
もわあ
むき
ラッ…
そして包茎チンポコの皮を剥かせる。
匂いを嗅ぐんだ……！
ふらーふらー
ふらー
ふらー
く、臭い！
あ
ぷうん
ラッ
少女は余りの臭さに鼻をつまみ目に涙を浮かべていた。
ぐわ
ぐっ
ぷっ…
ぷうん

皮の中に舌先を入れさせ
尿道口、裏筋、カリの溝の
掃除をさせる。物凄いイカ臭。
その匂いに少女は顔を歪める。
～あ～ぁ～～…
むわ
ぬちゅ
ぬちゃ

包茎チンポコの中は、
ヌルヌルのチンカスで
いっぱいだ。
ずちゅ
むあぁ
ごぱっ

少女の指と口の回りも
俺の濃厚なイカ臭い
チンカスと我慢汁で、
ベトベトになっていた。
もわぁ
ぴちゃ
ぴちゃ
ごぱっ

舌先で掃除をしていると
徐々に皮が剥けていく。
亀頭全体にチンカスが
ヌルヌルこびり付いている。
ぞりゅ

拙いフェラで
あったが小学生が
俺の包茎チンポを
咥えてるシチュに
興奮した。
くちゅ
ちゅく
んぐ
んふ
んっ

「口に含んで舐めろ」と少女に指示すると
疲れと絶望感で逆らう気を無くしたのか、
小さな口を精一杯開いて口に咥えた。
んっ
くちゅ
ぷちゅ
ちゅく
ぶっ
ぐっ
ぐっ

余りの苦し
さに溜らず
咽て咳きこむ。
ずるん
ごぱっ
ごぱっ
ごぱっ
ごぱっ

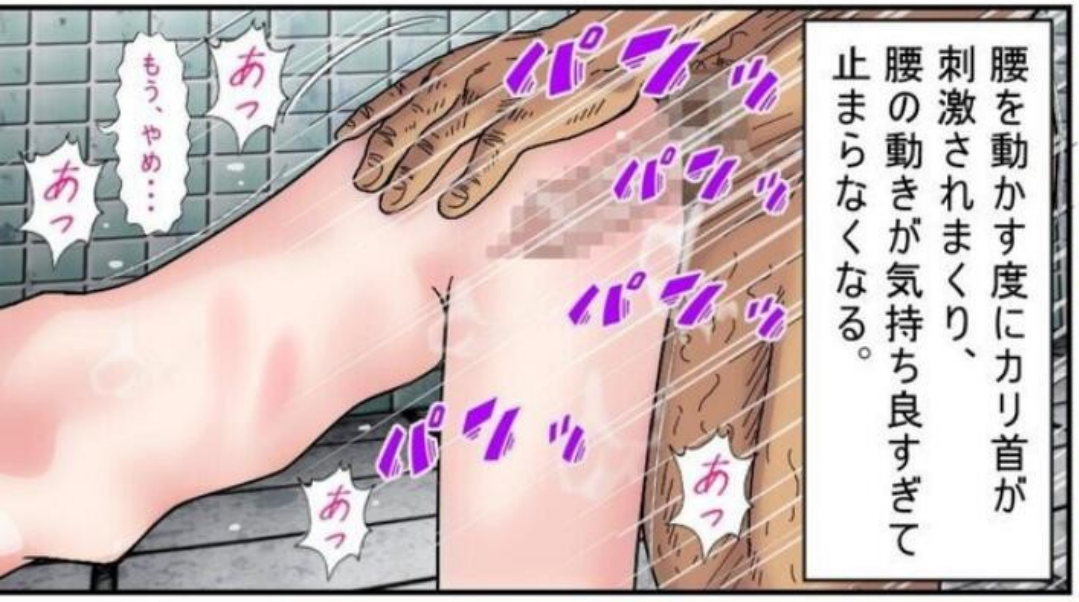
俺は口留めする為に、写メで少女の顔と裸を撮っておいた。
むら〜…
むら〜…
発育中のオッパイや
丸裸で恥ずかしがって姿を見てると……。
かあ
俺の包茎チンポコがギンギンとまた大きく弓なりに反り返った。少女が大人しいので調子に乗って俺はトイレの床に寝かせ、
ビキキ
足を引っ張りチンポコを割れ目に擦りつけた。
きゃあ!!
グイッ
ズルー
だめ!!
グッ

俺は一気に一番奥まで挿入した。
少女は苦しそうに喘いでいる。
今まで経験した事の無い締め付けだった。
んあ!!
ズブブブ
ビク
トイレには、俺と少女の肌が打付けあう音と、少女の喘ぎ声が響いている。
パン
パン
パン
パン
ぐっ
ぐっ
俺はお構いなしに腰を激しく動かす。
ガク
ぐっぐっぐっぐっ
ガクガクっ
…痛い……、痛いよ……。
んっんっんっ
ぐっぐっぐっぷっぐっぷっぐっ

小学生高学年のオマンコは締め付けがきつく、チンポコを包み込む吸着力が半端ない。
パン
パン
パン
ぷっ
ぷっ
ぷっ
パン
パン
パン
あっ
はっ
はっ
はっ
あっ
んっ
あっ
んっ
んっ
くちゅ
くちゅ
ぷっぷっ
ちゅく
チンポコがマンコの中で強烈に擦られ、最高に気持ちが良い！
…いやあ…
…もう、抜いて…
はぁ
はぁ
はぁ
少女は目に涙を浮かべて、痛みに必死に耐えている。
んっ
あっ
はぁ
はぁ
パン
パン
パン
パン
パン
パン
んっ

俺は次に、少女の腕を掴んでから両手を後ろに引いて、海老反りのような恰好をさせ、激しくバックからオマンコを付きまくる。
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
ガク
ガク
ガク
ぷっぷっぷっ

余りの激しさに、少女の眉間にシワがよる。
あっ
あっ


腰を動かす度にカリ首が刺激されまくり、腰の動きが気持ち良すぎて止まらなくなる。
もう、やめ…
あっ
あっ
あっ
あっ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ

悪臭のする静かな公衆便所に、さっきより湿った音が響き渡る。
くちゅぷちゅ
ちゅくぷっ

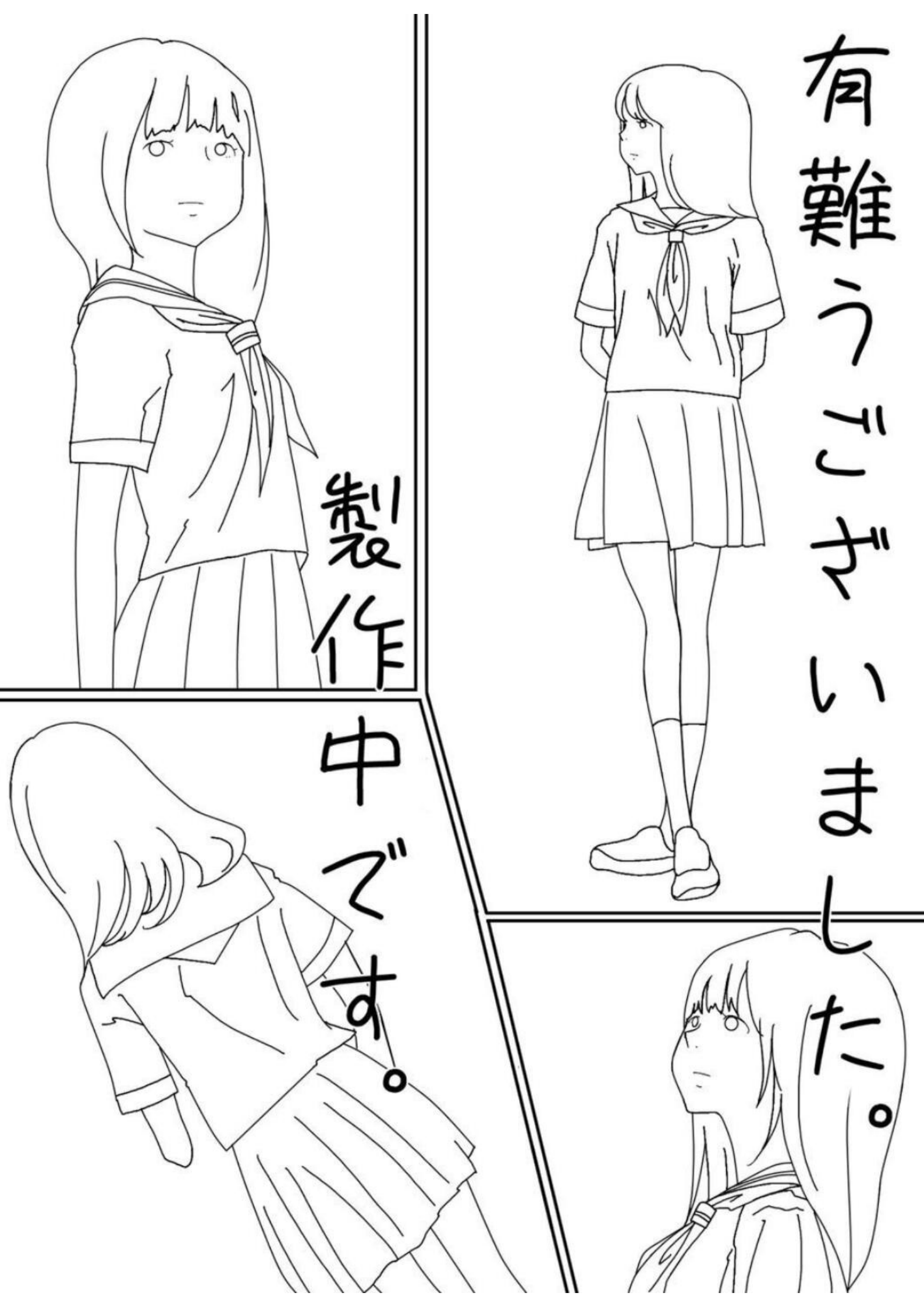
その不潔極まりない床に顔を伏せ、尻を突き上げてる少女の姿を見て更に興奮した。
パン
パン
パン
パン
パン
ん…
あ…
あ…
ガク
ガク
ガク

腰を動かしながらも、膨らみかけの胸、尻、太もも、お腹、髪の毛といった成長期の少女の身体に触れて未成熟な身体を存分に楽しんだ。
パンパンパンパン
ぷう
はあ
くちゅくちゅ
出すぞぉっ！
ぴゅぴゅ
射精か高まる、中出しを決めてた俺は少女のオマンコに膿を出した。
ずるん
んあっ
はあ
はあ
ぷちゅ
くちゅ
ちゅく
ぷちゅ
じゅー
じゅー
んぐんぐ
ちゅうー
じゅる
んんっ
グイッ
…あっ
しゅ
しゅ
んしゅ
はあー
はあー
顔に……、ぶっかけてやる……！
ぴゅっ
ぴゅっ
んぐっ

最後にメモリーの限界まで写真を撮りまくった。
もう、すっかり夜中だ。流石にヤバいと思い。
あ・・・
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
ぴく
ぴくん
どろ

おわり

外に誰も居ないか確かめてから公衆便所を後にした・・・・。
きょろきょろ
ふう


有難うございました。
製作中です。